



**YAMAHA**

**小型除雪機**



**取扱説明書**

**YS1390A**  
**YS1390AR**

ご使用前に、必ず取扱説明書・本体ラベルをお読みになり、内容を理解してからお使いください。

**7BB-28199-J0**

# はじめに





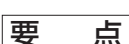
ヤマハ除雪機をお買いあげいただき、まことにありがとうございます。

本書は、商品の安全性に関する情報および商品の正しい取り扱い方法と簡単な点検・整備について記載してあります。

万一取り扱いを誤ると重大な事故やケガ、故障の原因となります。

あなた自身の安全と環境や住民の方との調和のために、また商品の性能を十分に発揮させるために、商品の取り扱いを充分ご存じの方も、この商品独自の装備、取り扱いがありますので、ご使用前に必ず本書を最後までお読みください。なおご使用時には本書を携帯し、安全に商品をご使用くださいますようお願い申し上げます。

本書では、正しい取り扱いおよび点検・整備に関する重要事項を下記シンボルマークで表示しています。

	安全に係る注意情報を意味しています。
	取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る危険が差し迫って生じると想定される場合を示してあります。
	取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。
	取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
	正しい操作の方法や点検整備上のポイントを示してあります。

- \* 仕様変更などにより、本書のイラストや内容が一部本機と異なる場合がありますのでご了承ください。
- \* 本書は大切に保管し、本機を貸与または譲渡される場合は必ず本書を添付してください。
- \* 将来、廃棄される場合およびバッテリー、廃油などの廃棄処理をされるときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店に相談してください。
- \* ヤマハ商品には保証書をおつけしています。  
保証書もよくお読みいただき裏面の販売店・捺印をご確認のうえ、大切に保管してください。

ご不明な点や不具合なところがありましたら、お早めにお買いあげのヤマハ販売店にご相談またはお申しつけください。

ヤマハ販売店では、お客様のよきアドバイザーとしてご来店をお待ち申し上げております。

# 目次

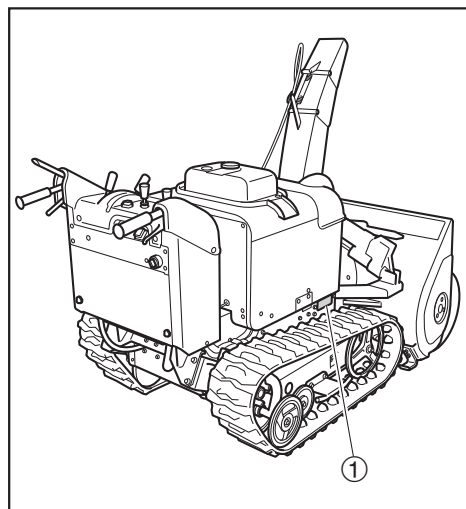
本体識別ラベル	1	排気の状態の点検	40
△安全にお使いいただくために	3	走行クラッチの操作具合の点検	40
重要ラベル	7	除雪スイッチ	40
各部の名称	9	シュータの作動具合	40
YS1390A	9	前日の作業で異常が認められた 箇所の点検	41
YS1390AR	13	正しい運転方法	43
各部の取り扱い	17	エンジンの始動	43
エンジンスイッチ	17	エンジンの停止	45
スロットルレバー	18	移動をするとき	46
変速レバー	18	進行方向を変えるとき	47
旋回レバー	19	エンジンを停止して移動するとき	47
シュータ調整スイッチ	20	除雪作業をするとき	48
走行クラッチレバー	21	デッドマンクラッチ	51
除雪スイッチ	21	除雪作業を停止するとき	52
オーガハウジング高さ調整スイッチ (YS1390A)	22	やさしい点検と整備	53
オーガハウジング高さ・角度調整 スイッチ (YS1390AR)	23	使用前点検	53
燃料タンクキャップ	24	定期点検	53
燃料残量計	24	点検項目	54
燃料コック	25	エンジンオイルの交換	56
ヒューズ	25	変速機 (HST) オイルの補給	58
シャーボルトガード	26	ウォームケースオイルの交換	59
スノーバー (雪かき棒)	26	スパークプラグの点検・清掃	60
スキッド	27	フューエルストレーナの清掃	62
スクレーパ	27	スキッドの調整	63
作業灯	28	シャーボルトの交換	65
油量警告灯	28	スクレーパの調整	66
異常警告灯	29	トラック (クローラ) の張りの点検と 調整	67
車体水平スイッチ	29	バッテリー液の点検	68
らくらく除雪スイッチ	30	ヒューズの交換	69
運転する前に点検しましょう	33	スプロケットピンの交換	70
使用前点検	33	各部の給油	71
燃料の点検	34	保管・格納	73
エンジンオイルの点検 (簡易式)	36	保管	74
エンジンオイルの点検	37	格納	78
変速機 (HST) オイルの点検	38	故障自己診断について	79
バッテリー液量の点検	39	異常警告灯の確認	79
オーガの点検	40	仕様諸元	80
ハンドルのゆるみ、ガタの点検	40	お客様ご相談窓口のご案内	81
スタータモータの作動具合の点検	40	索引 (さくいん)	83
エンジンのかかり具合および異音の 点検	40		

# 本体識別ラベル

商品名、製造番号は問い合わせや部品を注文する際に使用します。

下図の本体識別ラベル①をご参照のうえ、商品名（型式）②、製造番号③を右の欄に記入してください。

万一の盗難時のために商品名、製造番号などは他の資料にも記録してください。



商品名

製造番号

購入年月日

年 月 日

購入先

電話



## ⚠️ 安全にお使いいただくために

ご使用前に必ず取扱説明書および本機に貼付しているラベル類を最後までお読みいただき、正しい操作方法をよくご理解ください。



過労時や飲酒、薬物を服用して除雪機を使用しないでください。



使用前点検、定期点検を必ず行ってください。



除雪機を取り扱うときはすべりにくいはきもの・防寒服・手袋を着用してください。



子供や正しい操作方法を知らない人には操作させないでください。

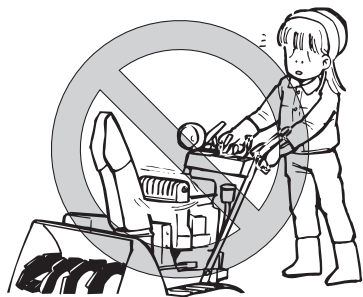


早朝、夜間など視界のよくないときは除雪機を使用しないでください。



## ⚠️安全にお使いいただくために

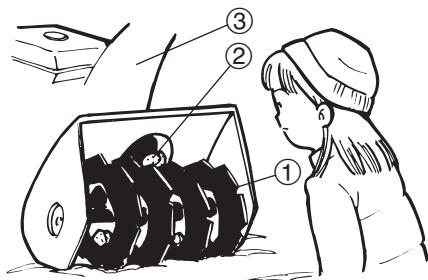
ガードやカバーなどを外した状態でエンジンを始動させないでください。



ガソリンは揮発性が高く引火しやすい燃料です。給油時はエンジンを止め、火気を近づけないでください。



使用前にはオーガ①やインペラ②などの回転部分およびシュータ③に異物がないか確認してください。



除雪前に除雪場所から木片・缶・ホース線材・ナワおよびその他の異物をすべて除去してください。

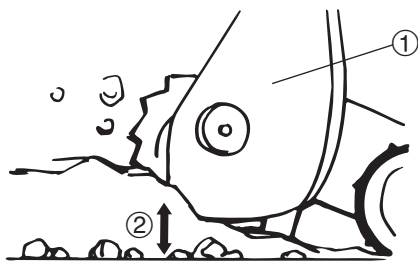


除雪機を移動させるとき以外は、屋内でエンジンを始動させないでください。

排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれます。移動のときも扉を開け十分な換気を行ってください。

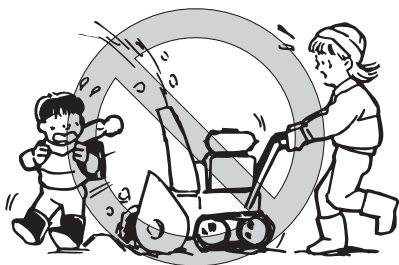


砂利のある場所を除雪するときは、雪に混じって砂利が飛ばないようにオーガハウジング①と地面とのすき間②を確保して運転してください。

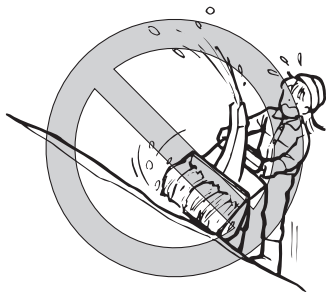


# ⚠️ 安全にお使いいただくために

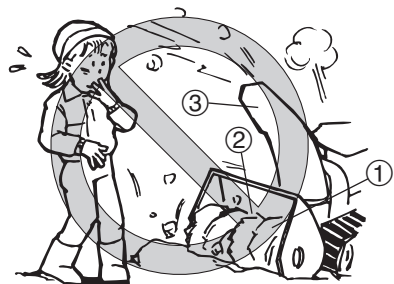
除雪機を操作する人以外は除雪場所に入れないでください。



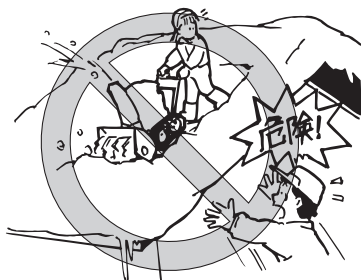
傾斜面を横切って除雪しないでください。  
また、坂道での除雪や停車はしないでください。



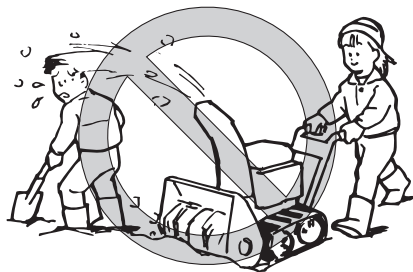
オーガ①やインペラ②などの除雪部やシュータ③をのぞいたり、顔や手足を近づけないでください。



屋根に積もった雪の除雪や急斜面では使用しないでください。



人や建物、自動車などに向けて投雪しないでください。



除雪機に異常な振動・音・においがあるときはエンジンを停止し、お買いあげいただいたヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。





## ⚠️ 安全にお使いいただくために

除雪機を駐車するときは平坦な場所に止め、オーガ①を下げて地面に接地し、変速レバー②は中立“N”以外の位置にしてください。



エンジン停止後、しばらくの間はマフラー（排気管）が熱くなっていますので、通行する人が触れない場所に除雪機を止めてください。



除雪機を除雪以外の目的で使用しないでください。



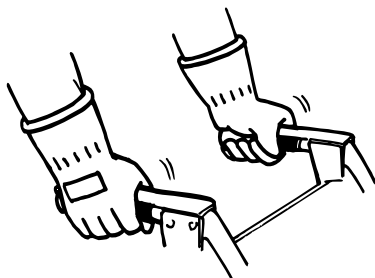
シュータ①に詰まった雪を取り除くときはエンジンを停止させてからスノーバー（雪かき棒）を使用してください。



除雪機にカバーなどを掛けるときは、エンジンやマフラーが充分に冷えてから掛けてください。



走行クラッチレバーを絶対に固定しないでください。安全機構が機能なくなり、死亡や重傷など重大事故になるおそれがあります。

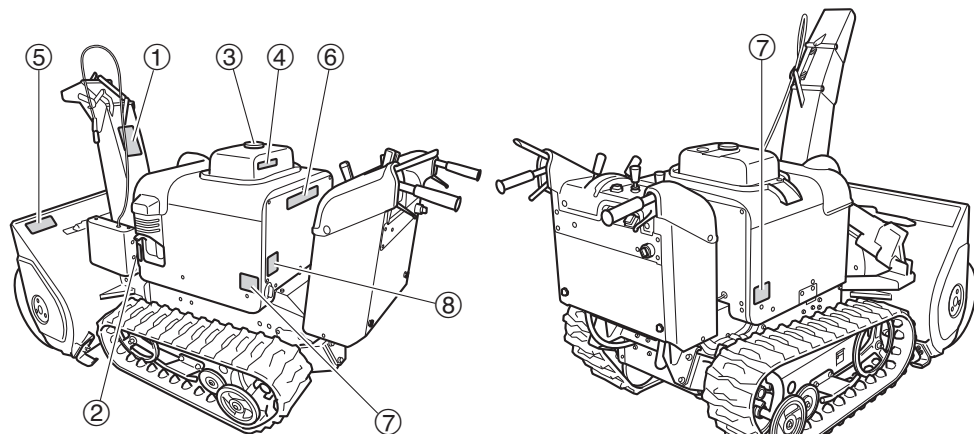


# 重要ラベル

商品の安全な取り扱いのため、本体に貼付されている「ラベル」をお読みいただき、ラベルの指示に従ってください。

## 要 点

重要ラベルが破れたりはがれたりした場合は、ヤマハ販売店に相談して新しいものと交換してください。



①

⚠ 警 告	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>エンジン回転中はのぞいたり、手を入れたりしないでください。</li> <li>雪を取除くときはかならずエンジンを停止してから、雪かき棒で行ってください。</li> <li>巻込まれて、ケガをするおそれがあります。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業中は投雪口を人や建物に向けないでください。</li> <li>飛散物によりケガや破損のおそれがあります。</li> </ul>
7MN-51782-**	

②


⚠ 警 告	
	<p><b>排気ガスに注意</b></p> <p>室内および換気の悪い場所での運転は排気ガスが充満し、人体に有害です。</p>
	<p><b>⚠ 注 意</b></p> <p><b>マフラー高温注意</b></p> <p>さわるとやけどをするおそれがあります。</p> <p style="text-align: right;">7MN-24156-**</p>

③

<p><b>⚠ 危険</b></p>	<p><b>火 気 禁 蔵</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>給油口に火を近づけると火災になるおそれがあります。</li> <li>給油中は、エンジンを停止してください。</li> </ul> <p style="text-align: right;">7MN-2415E-**</p>
--------------------	-----------------------	---

# 重要ラベル

④



**危険**

- クラッチレバーは絶対に固定しないでください。
- 死亡や重傷など重大事故になるおそれがあります。

710-24151F-\*\*

⑤



**危険**

- エンジン回転中はのぞいたり、手を入れたりしないでください。
- 雪を去除くときはかならずエンジンを停止してから、雪かき棒で行なってください。
- 巻き込まれて、ケガをするおそれがあります。

7MN-51781-\*\*


⑥

**危険**



- 後進するときはかならず後を確認して、ゆっくり走行クラッチを入れてください
- ケガをするおそれがあります。

**注意**



- 変速レバーが「N」の中立位置以外では走行クラッチを入れないでください
- 急発進により、ケガをするおそれがあります。
- 点検整備をするときは、エンジンを停止してください。
- ケガをするおそれがあります。
- 作業前に取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。
- 操作装置位置と機能をよく理解してから、運転してください。

7FX-24162-\*\*

⑦

**注意**




- カバー類は常に装着してください。
- はずしたままで運転するとケガをするおそれがあります。

7MN-5151F-\*\*

⑧

長期保管時には  
コック矢印を「キャブ」位置に、その後「ホース」位置に合わせて下さい。



残っているガソリンが排出口から抜けます。

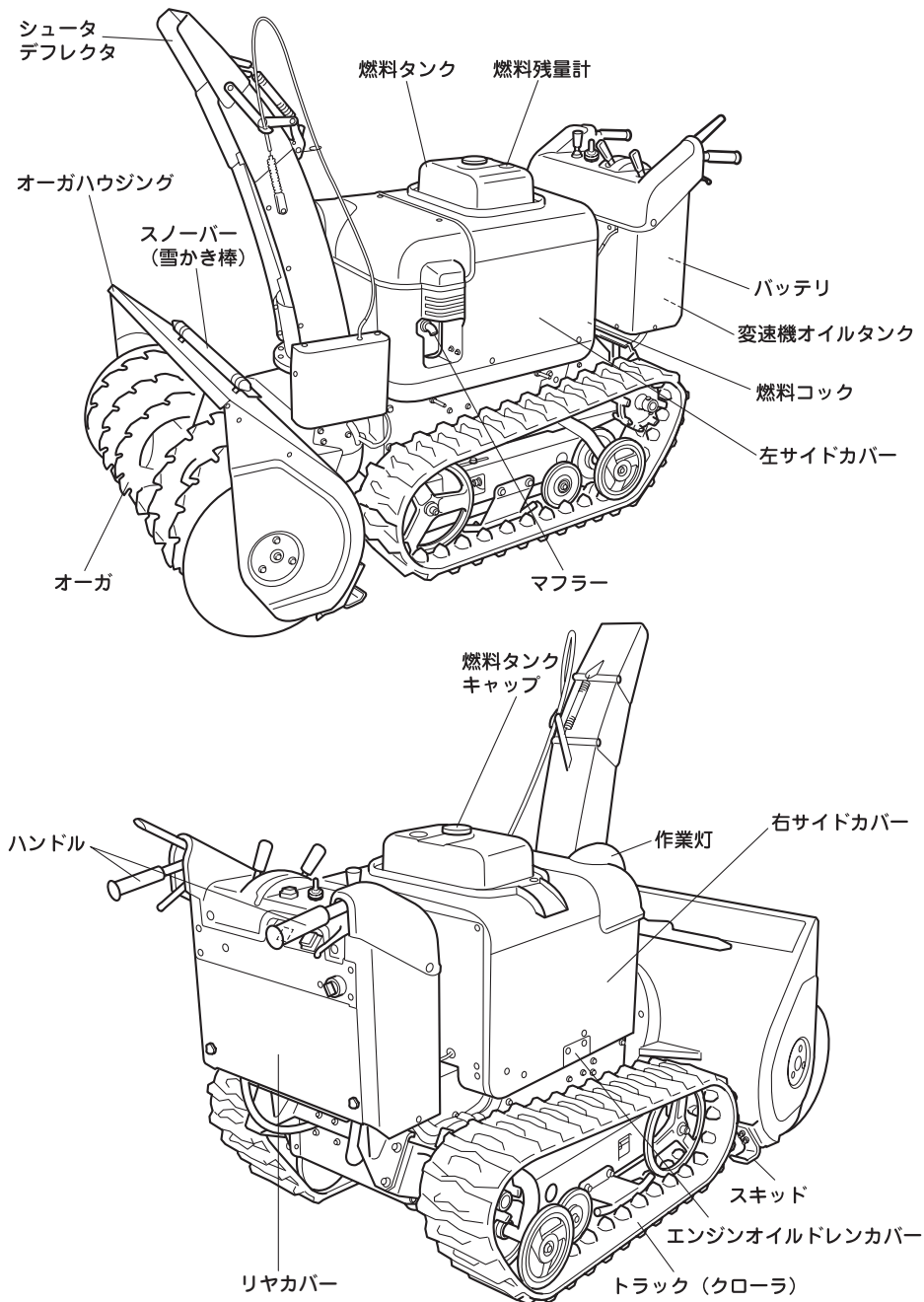
**危険** 火気厳禁

ガソリン排出口に火を近づけると火災になる恐れがあります。

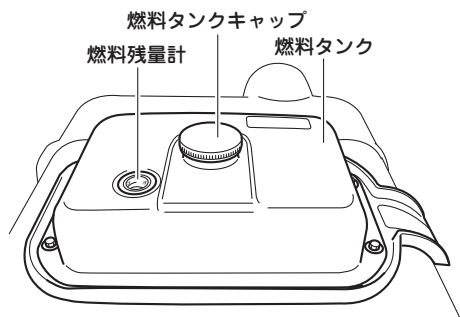
7RV-F4241-\*\*

# 各部の名称

## YS1390A



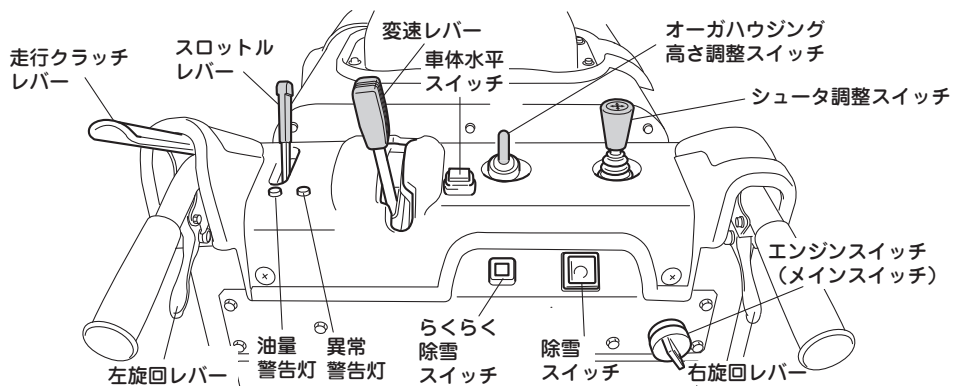
# 各部の名称



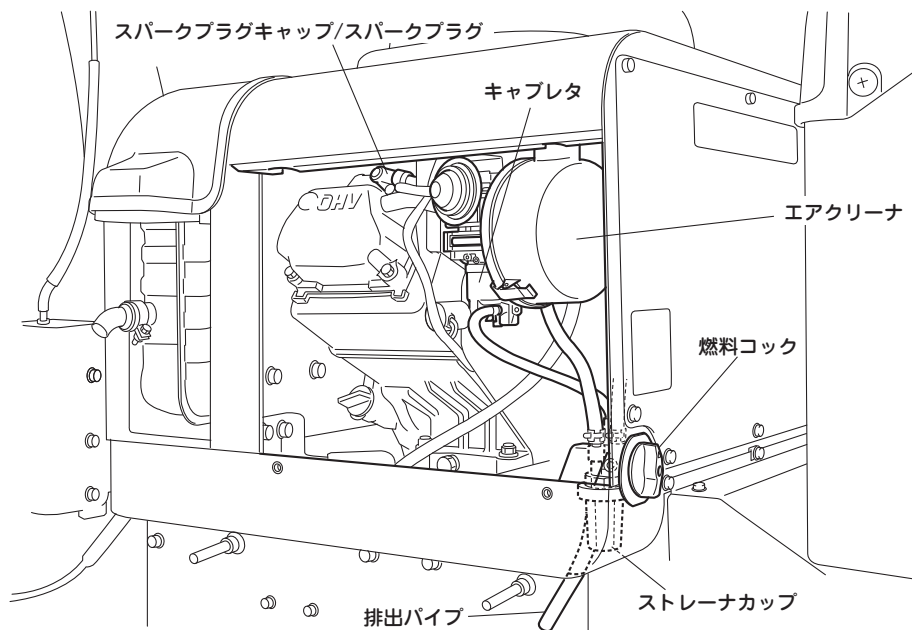
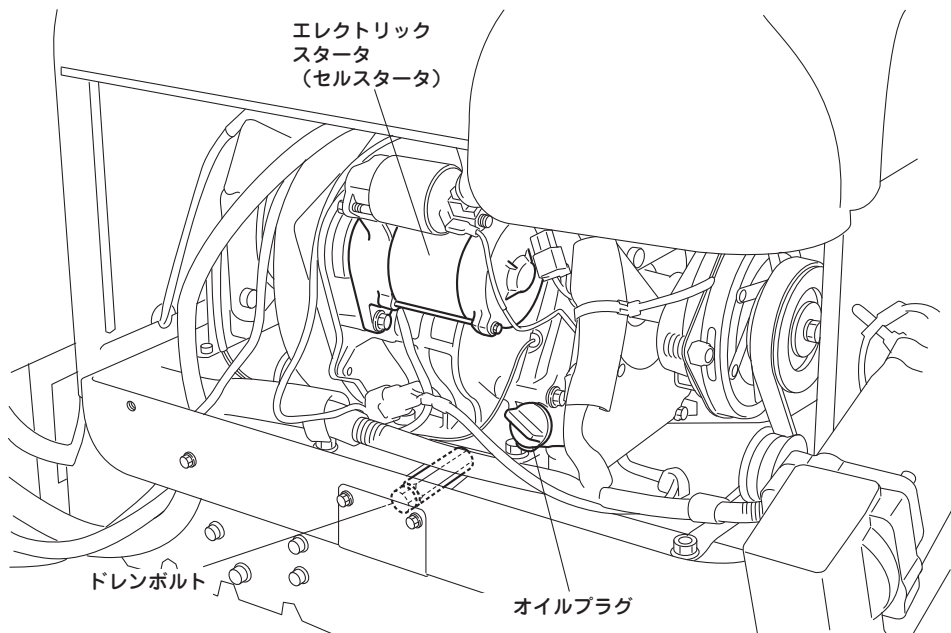
燃料コックレバー



燃料コック



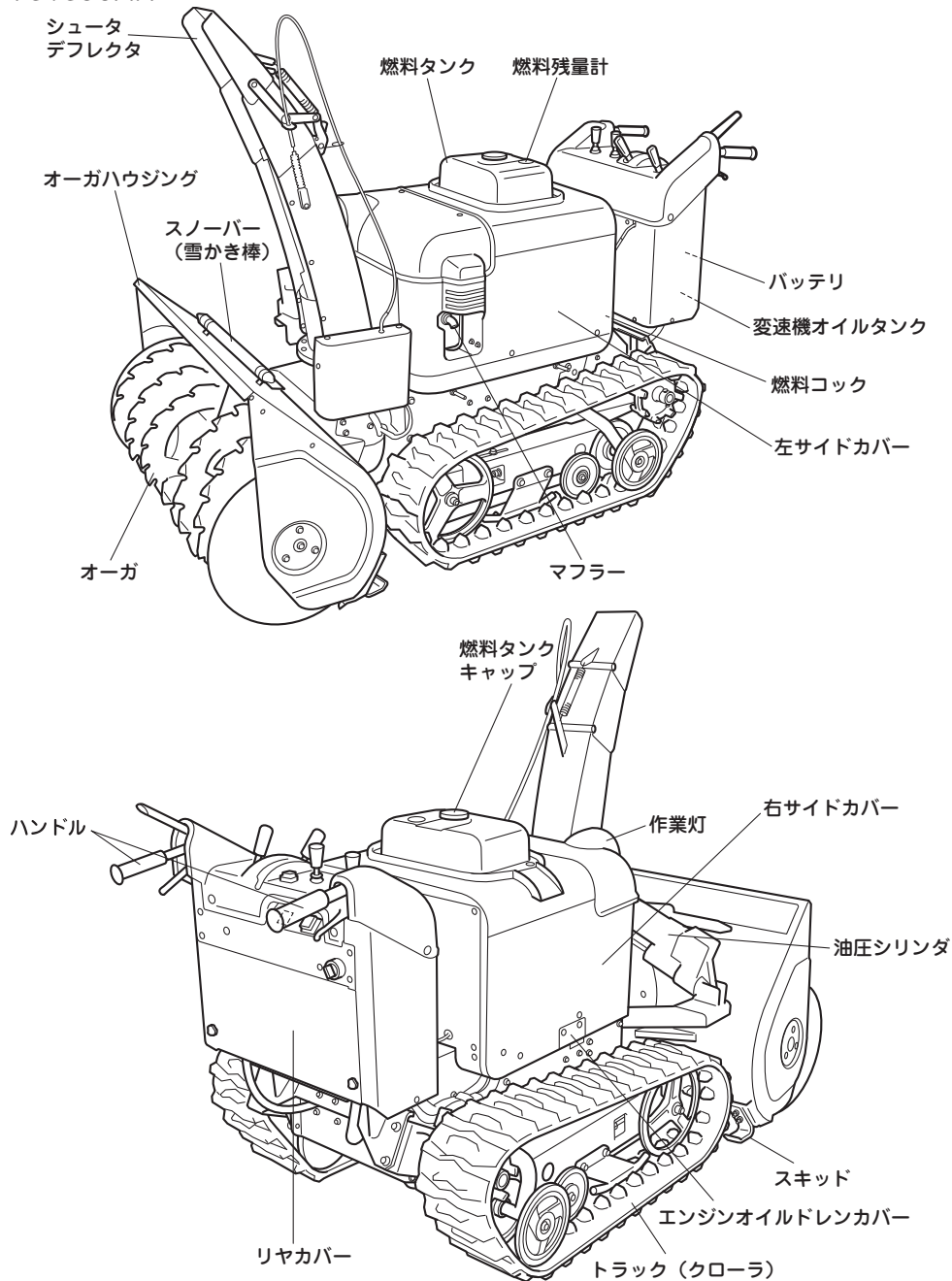
# 各部の名称





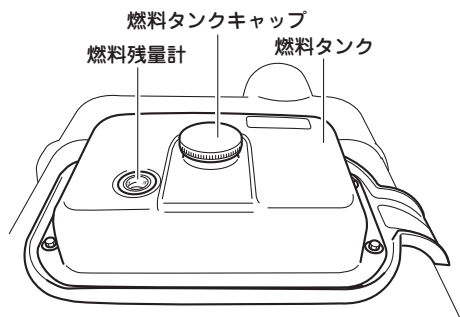
# 各部の名称

## YS1390AR





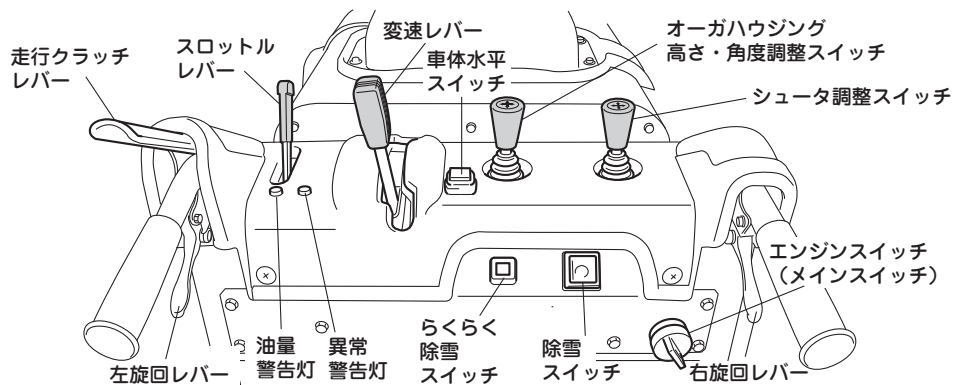
# 各部の名称



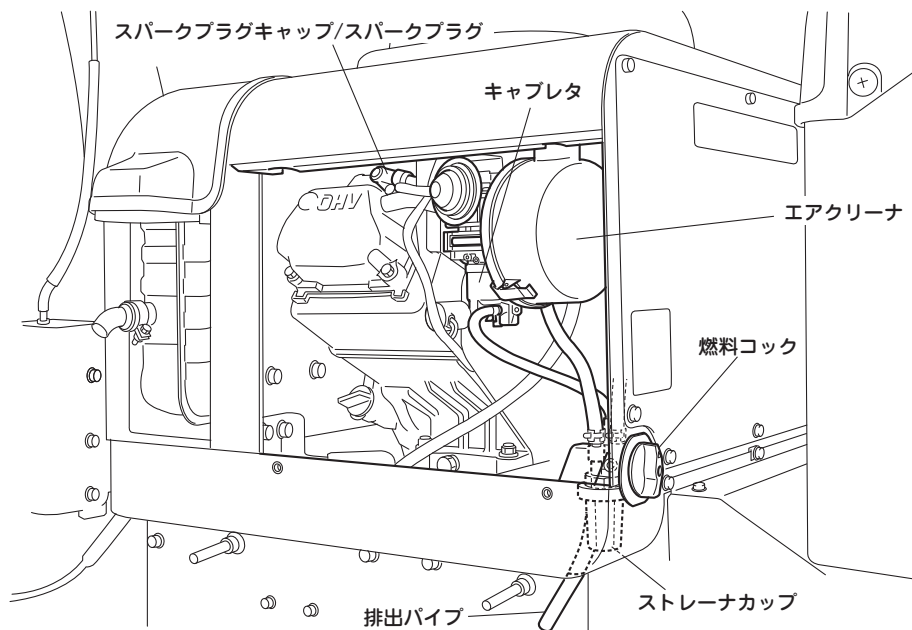
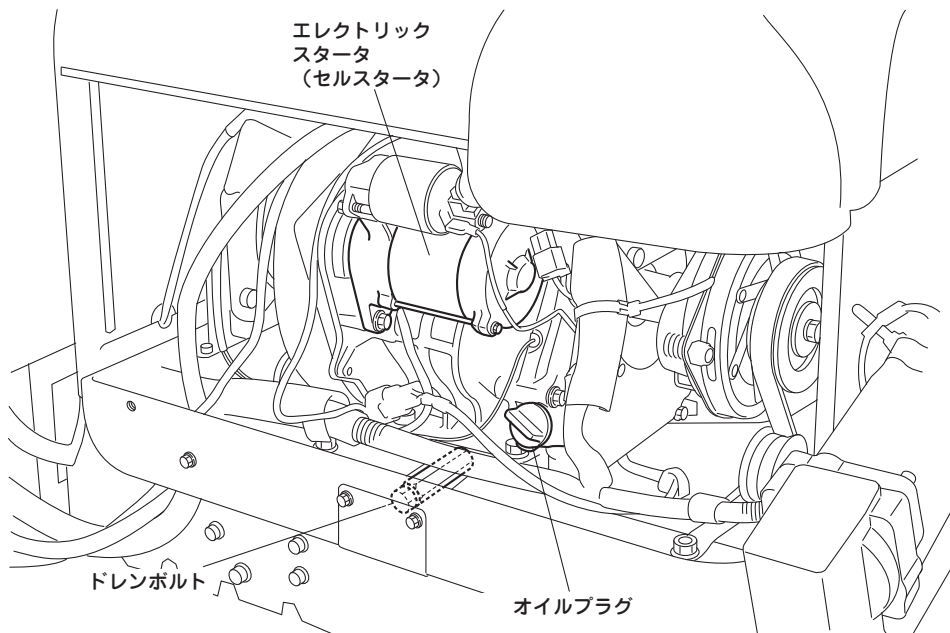
燃料コックレバー



燃料コック



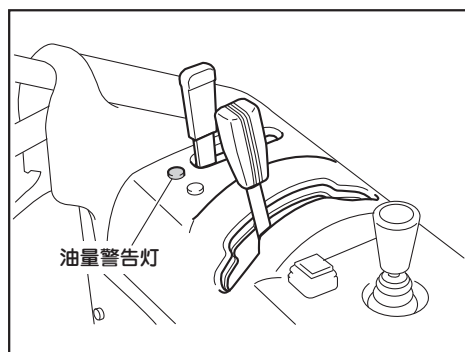
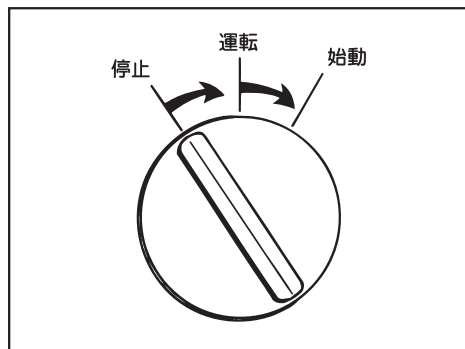
# 各部の名称





# 各部の取り扱い

## エンジンスイッチ



エンジンスイッチは始動・運転・停止システムを制御します。

### 停止：

エンジンを停止する位置です。  
キーの抜き取り、差し込みができます。

### 停止と運転の間：

油量警告灯が点灯します。  
油量警告灯の球切れ確認ができます。

### 運転：

エンジン運転中の位置です。  
キーの抜き取りはできません。

### 始動：

エンジンを始動する位置です。  
スタータモーターが回ります。キーから手をはなすと自動的に“運転”の位置に戻ります。  
キーの抜き取りはできません。

## ▲注意

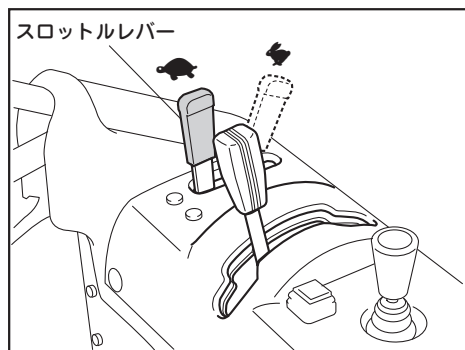
- スタータモーターを連続して5秒以上回転させないでください。消費電力が多いためバッテリー上がりの原因になります。
- エンジンが停止した状態で長時間“運転”位置で放置しないでください。バッテリー上がりの原因になります。

## 要 点

使用しないときは、エンジンスイッチキーを抜いてください。

# 各部の取り扱い

## スロットルレバー



エンジンの回転を調節するときに操作します。

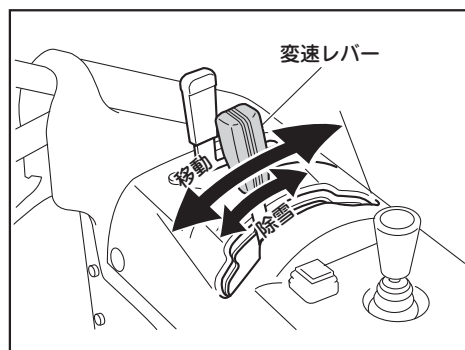
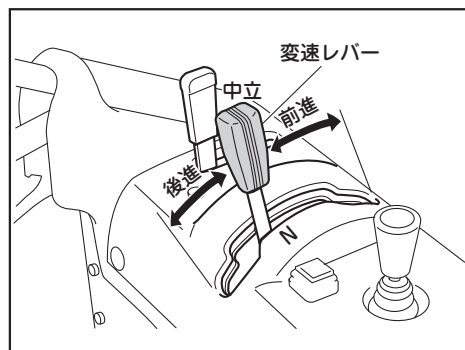


エンジンを開始するとき、または除雪作業や移動をするときのレバー位置です。



アイドリング運転のときのレバー位置です。

## 変速レバー



前進、後進の切り替え、および走行速度を調節するときに操作します。

変速レバーには“移動時”と“除雪時”の2つのゲートがあります。

用途に合わせて操作してください。

### ▲注意

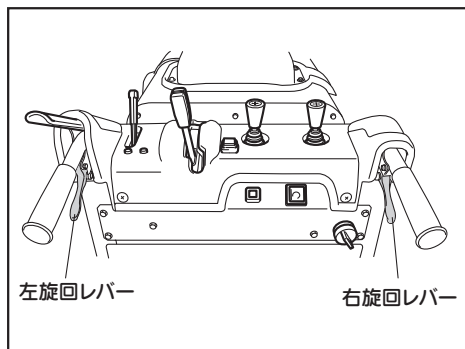
- 変速レバーは中立“N”の位置からゆっくり操作し、作業に適した速度に調節してください。
- 除雪作業開始時は変速レバーをゆっくり操作し“除雪”の範囲内で使用してください。

移動速度 (km/h)	
前進	0~3.2
後進	0~2.5

# 各部の取り扱い

---

## 旋回レバー



進行方向を変えるときに操作します。

**右旋回レバー：**

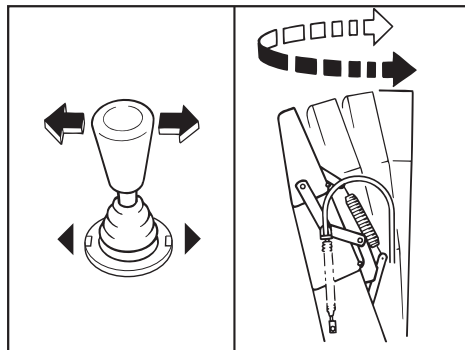
右に曲がるときに使います。

**左旋回レバー：**

左に曲がるときに使います。

# 各部の取り扱い

## シュータ調整スイッチ



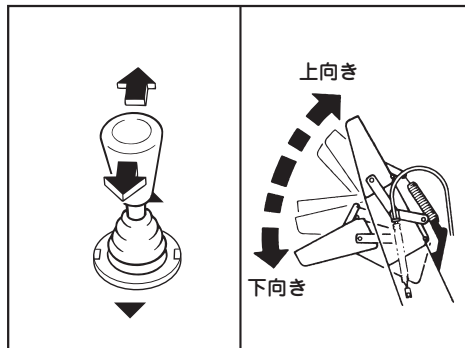
投雪方向を変えるときに操作します。



シュータは右回転します。



シュータは左回転します。



投雪角度を変えるときに操作します。



シュータデフレクタが下向きになり雪を近くに飛ばします。



シュータデフレクタが上向きになり雪を遠くに飛ばします。

## ▲注意

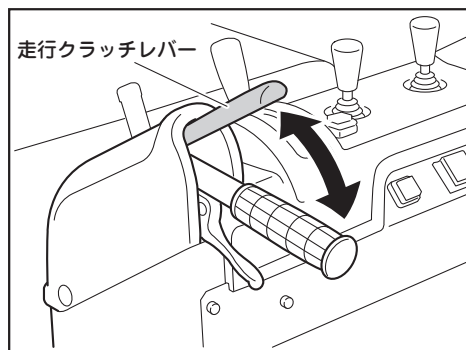
- シュータ調整スイッチを強く押さないでください。強く押すとスイッチが破損する場合があります。
- シュータがロックしている状態でシュータ調整スイッチを押し続けしないでください。モータのブレーカが作動したり、またはモータが破損する場合があります。
- シュータ調整はエンジンが運転しているときに行ってください。エンジンキーを“運転”にして、エンジンを始動せずに操作するとバッテリーが消耗します。

## 要 点

シュータ調整スイッチを強く押してもシュータの移動は速くなりません。

# 各部の取り扱い

## 走行クラッチレバー



除雪機を走行させるときに操作します。

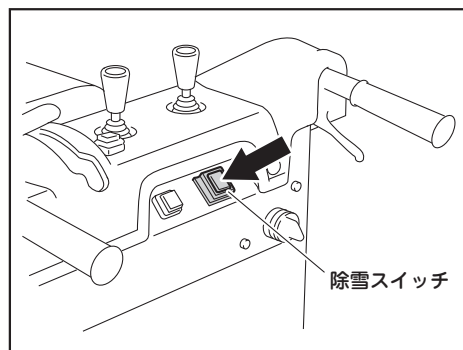
**レバーを握る：**

除雪機が走行します。

**レバーをはなす：**

除雪機が停止します。

## 除雪スイッチ



走行クラッチレバーを握っているとき

**スイッチを押す：**

スイッチ部のライトが点灯し、オーガが回転します。

**スイッチを再度押す：**

スイッチ部のライトが消灯し、オーガが停止します。

### 要 点

除雪スイッチから手をはなしてもオーガは回転を続けますが、走行クラッチレバーをはなすとオーガは停止します。

走行クラッチレバーをはなしているとき

**スイッチを押し続ける：**

スイッチ部のライトが点灯し、オーガが回転します。

**スイッチを押すのをやめる：**

スイッチ部のライトが消灯し、オーガが停止します。

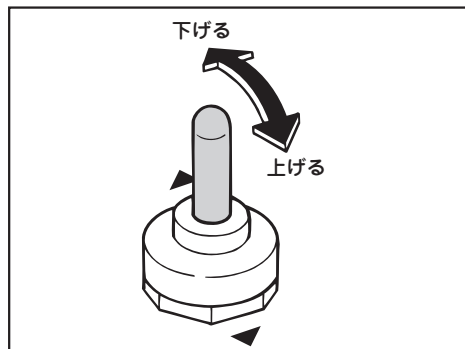
### ▲注 意

除雪スイッチは0.5秒以上押し続けないと作動しません。



# 各部の取り扱い

## オーガハウジング高さ調整スイッチ (YS1390A)



オーガハウジングの高さを変えるときに操作します。

スイッチを操作している間、無段階に調節することができます。

**オーガハウジングを上げる：**

スイッチを後方にたおします。

**オーガハウジングを下げる：**

スイッチを前方にたおします。

### ▲注意

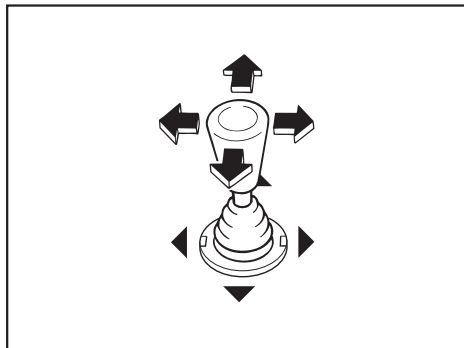
- オーガハウジング調整スイッチを強く押さないでください。  
強く押すとオーガハウジング調整スイッチが破損する場合があります。
- オーガハウジングがロックしている状態でオーガハウジング調整スイッチを押し続けしないでください。モータのブレーカが作動したり、またはモータが破損する場合があります。
- オーガハウジング高さ調整はエンジンが運転しているときに行ってください。エンジンキーを“運転”にして、エンジンを始動せずに操作するとバッテリーが消耗します。

### 要 点

強く押してもオーガハウジングの移動は速くなりません。

# 各部の取り扱い

## オーガハウジング高さ・ 角度調整スイッチ (YS1390AR)



オーガハウジングの高さ・角度を変えると  
きに操作します。

▼：  
オーガハウジングが高い位置になります。

▲：  
オーガハウジングが低い位置になります。

▶：  
オーガハウジングが右側に傾きます。

◀：  
オーガハウジングが左側に傾きます。

### ▲注意

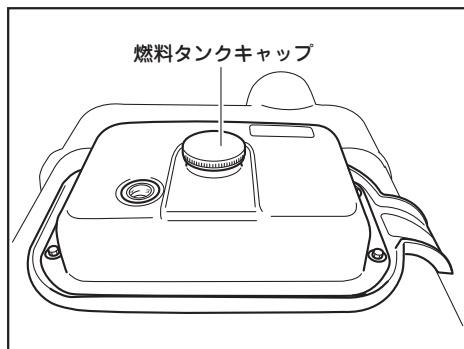
- オーガハウジング調整スイッチを強く押さないでください。  
強く押すとオーガハウジング調整スイッチが破損する場合があります。
- オーガハウジングがロックしている状態でオーガハウジング調整スイッチを押し続けしないでください。モータのブレードが作動したり、またはモータが破損する場合があります。
- オーガハウジング高さ・角度調整はエンジンが運転しているときに行ってください。  
エンジンキーを“運転”にして、エンジンを始動せずに操作するとバッテリーが消耗します。

### 要 点

強く押してもオーガハウジングの移動は速くなりません。

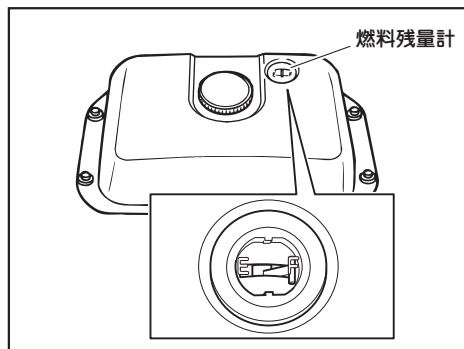
# 各部の取り扱い

## 燃料タンクキャップ



燃料タンクキャップは反時計方向に回して取り外します。

## 燃料残量計

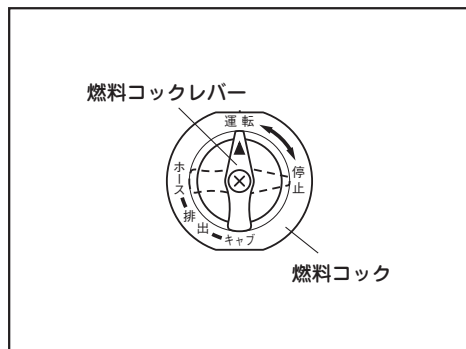


燃料タンク内の燃料残量を示します。燃料残量計の針が“E”の位置に近づいたら早めに給油してください。

指定燃料：  
無鉛レギュラーガソリン  
燃料タンク容量：  
6.7L

# 各部の取り扱い

## 燃料コック



レバーの位置で燃料の流れを制御します。

### 停止：

除雪機を使用しないときのレバー位置です。

燃料は流れません。

### 運転：

始動および運転時のレバー位置です。

### キャブ：

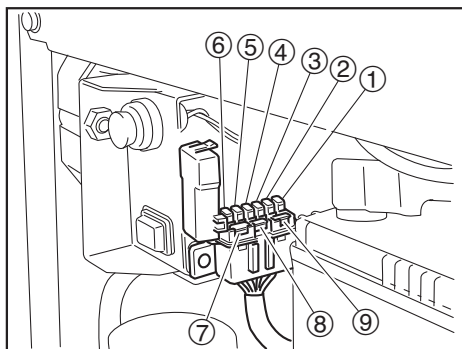
キャブレタ内の燃料が排出されます。

### ホース：

燃料コックからキャブレタまでの燃料ホース内の燃料が排出されます。

保管・格納時のレバー位置です。

## ヒューズ



バッテリー横のヒューズボックスに装着されています。

### タイプ：

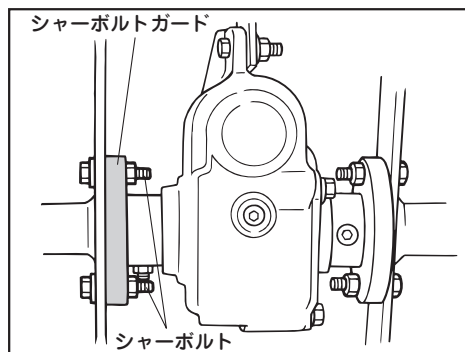
ミニチュアタイプ

### 容量：

シグナル	①	5A
ECU	②	15A
メイン	③	25A
モータ	④	30A
チャージ	⑤	30A
予備	⑥	30A
	⑦	25A
	⑧	15A
	⑨	5A

# 各部の取り扱い

## シャーボルトガード



オーガに異物がかみ込んだり縁石などに接触した場合、シャーボルトガードが空回りして衝撃を緩和し、オーガやシャーボルトを保護します。

さらに強い衝撃が加わると、シャーボルトが折損します。

### ⚠危険

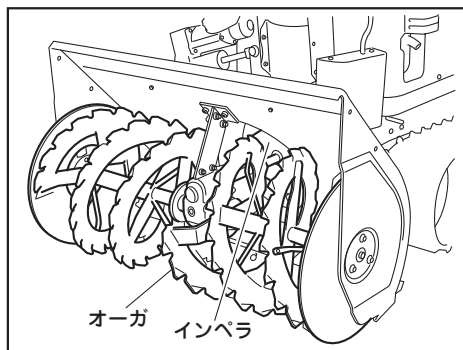
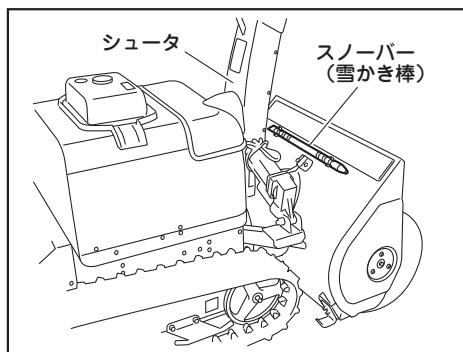
オーガ回転中はのぞいたり、手を入れたりしないでください。

### 要 点

シャーボルトは純正部品をご使用ください。

- オーガ用  
シャーボルトセット (各部品5個入り)  
(7BE-W008A-00)
  - シャーボルト
  - ロックナット
  - ワッシャ
- インペラ用  
シャーボルト (97022-08025)  
ロックナット (95302-08600)

## スノーバー (雪かき棒)



シュータやオーガ、インペラに詰まったり付着した雪を取り除く場合に使用します。

### ⚠危険

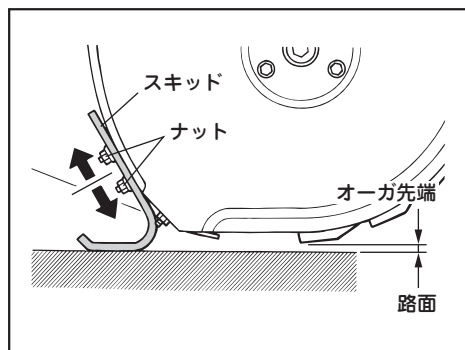
- インペラ、オーガ回転中は中をのぞいたり、手を入れたりしないでください。
- 回転部に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止してエンジンスイッチキーを抜き、各部が完全に停止してから行ってください。

### ⚠警告

手袋をはめてスノーバー (雪かき棒) を使用してください。

# 各部の取り扱い

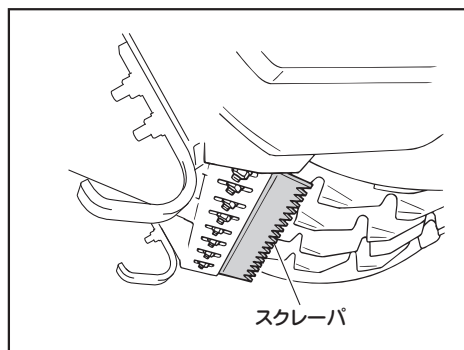
## スキッド



スキッドはオーガ先端と路面との間の高さを決めます。路面の状態に合わせてすき間を調整してください。

	路面とオーガ先端のすき間
工場出荷時 (標準位置)	5mm
コンクリート、 アスファルト路	小さくする
小石路、 砂利道	大きくする

## スクレーパ

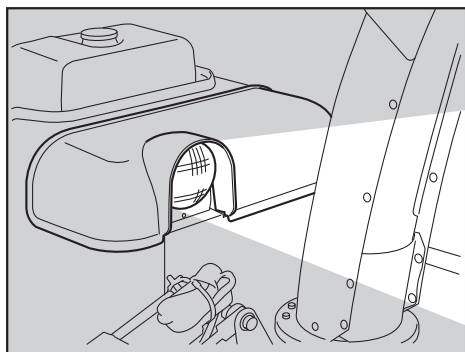


スクレーパは除雪する雪面をならします。路面の状態に合わせて路面とスクレーパ先端とのすき間を調整してください。

	路面とスクレーパ先端のすき間
工場出荷時 (標準位置)	5mm 以上
コンクリート、 アスファルト路	小さくする
小石路、 砂利道	大きくする

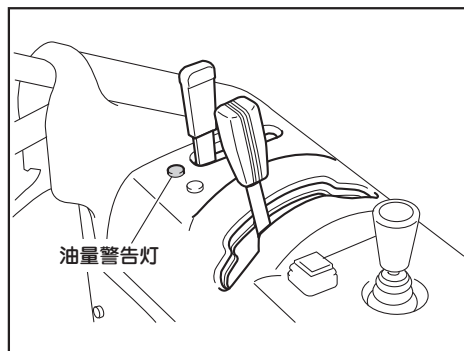
# 各部の取り扱い

## 作業灯



作業灯はエンジンが始動すると自動的に点灯し、除雪作業や移動を行う場合に除雪機の前方を照らします。

## 油量警告灯



運転中にエンジンオイルが規定量以下になると点灯し、エンジンオイル不足を知らせます。

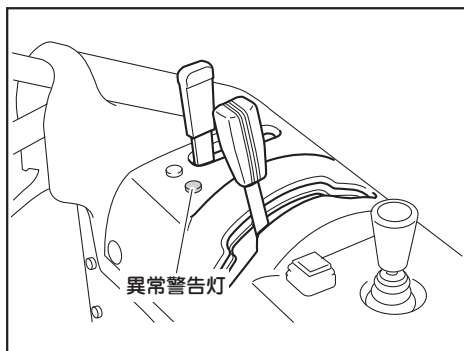
### ▲注意

除雪機の傾きにより油量警告灯が点灯する場合があります。

そのときは除雪機を水平な場所に移動し、再度油量警告灯が点灯するか確認してください。

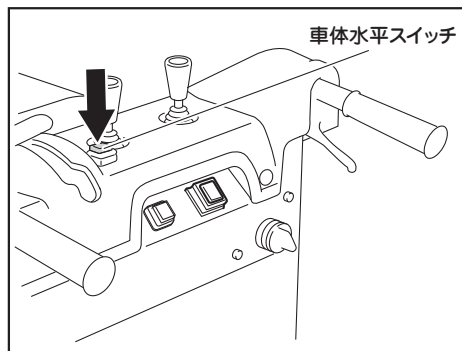
# 各部の取り扱い

## 異常警告灯



運転中に異常が発生した場合に、警告灯の点滅パターンにより異常箇所を知らせます。(79ページ参照)

## 車体水平スイッチ



車体水平スイッチを押すことにより、以下の機能が動きます。

### 車体水平復帰機能

オーガの下端を自動的に路面に接する高さにさせる機能です。

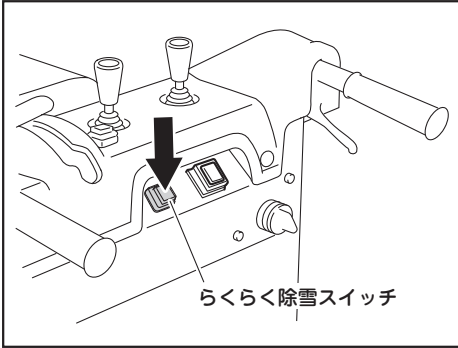
### 要 点

車体水平復帰機能が作動しているときは、オーガハウジング高さ調整スイッチによる手動操作はできません。



# 各部の取り扱い

## らくらく除雪スイッチ



らくらく除雪スイッチを押すことにより、以下の1～3の機能が働きます。

なお、再度らくらく除雪スイッチを押すと機能が解除され手動操作が可能になります。ライト点灯…スイッチ“ON”の状態です。ライト消灯…スイッチ“OFF”の状態です。

### 要 点

らくらく（オートリフト、オートリセット）機能が作動しているときは、オーガハウジング高さ調整スイッチによる手動操作はできません。

らくらく機能の作動が完了してから、手動操作で微調整を行ってください。

#### 1. オートスピードコントロール機能

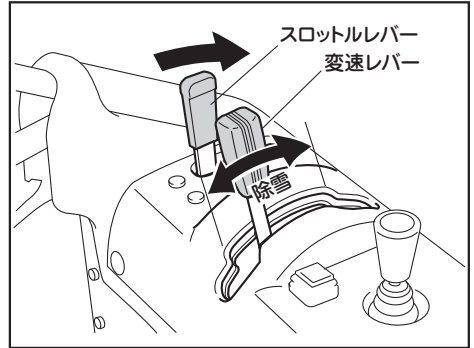
雪の状態や量に応じて除雪速度を自動的に制御する機能です。

作動の条件


- ・ 除雪スイッチ…“ON”
- ・ 走行クラッチ…“ON”

コンピュータが作動し、エンジン回転数を検知して、あらかじめ設定された除雪に最適な速度（スピード）にします。

例) 雪が多い除雪時は低速になり、雪が少ない除雪時は変速レバーで設定した速度（スピード）に近づきます。



### 要 点

- オートスピードコントロールは、除雪していないときや、クローラがスリップしているときには作動しません。そのようなときには変速レバーを調整してください。
- コンピュータが設定している速度（スピード）よりも速い、または遅い速度で除雪したい場合はらくらく除雪スイッチを“OFF”にして手動操作に切り替えてください。
- 除雪時の変速レバーは“除雪”の範囲で任意に、スロットルレバーは“”の位置に設定してください。

#### 2. オートリフト機能

後進時、オーガを自動的に上昇させる機能です。

作動の条件

- ・ 変速レバー…“後進”
- ・ 走行クラッチ…“ON”

コンピュータが作動し、自動的にオーガが上昇するため、手動による作業が不要になります。

# 各部の取り扱い

---

## 3. オートリセット機能

オーガを自動的に元の除雪位置に戻す機能です。

作動の条件

- ・ 変速レバー…“前進”
- ・ 除雪スイッチ…“ON”
- ・ 走行クラッチ…“ON”

コンピュータが作動し、オーガを元の除雪位置に戻すため、手動による作業が不要になります。

### 要 点

---

- 元の除雪位置が水平より下の場合は、水平位置（オーガ先端が路面に接する高さ）までしか戻らないようになっていきます。
  - オーガの戻る位置には、若干の差が生じることがあります。
-



# 運転する前に点検しましょう

---

## ▲警告

- 点検・整備を怠ると事故やトラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 安全使用のため、ご自身の知識、技量に合わせた範囲で点検を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店に相談してください。

点検・整備を行うときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検・整備は平坦な足場のしっかりした場所で行ってください。
  - 点検・整備を行うときは、エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜いてください。
  - エンジン停止直後はエンジン本体やマフラーなどが熱くなっています。やけどに注意してください。
  - 異常が認められたときは、ご使用の方ご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。
- 

## 使用前点検

除雪機を安全で快適にご使用いただくため、お客様自身がお使用前に以下の項目について必ず点検を実施してください。

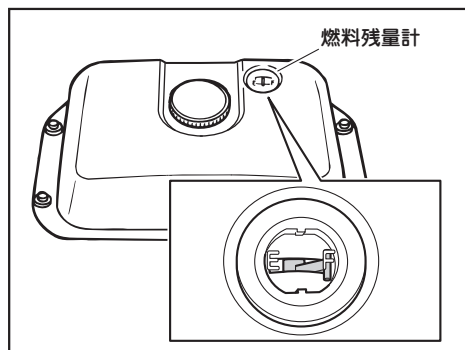
- 作業に十分な燃料の量
- 各オイル量
- オーガの状態
- ハンドルのゆるみ、ガタ
- スタータモータの作動具合
- エンジンのかかり具合および異音
- 排気の状態
- オーガクラッチ、走行クラッチの操作具合
- シュータの作動具合
- 前日の作業で異常が認められた箇所

# 運転する前に点検しましょう

## 燃料の点検

燃料残量計の針が“F”の位置にあるか点検します。

燃料が少ないときは燃料タンクキャップを外し、規定量まで給油してください。

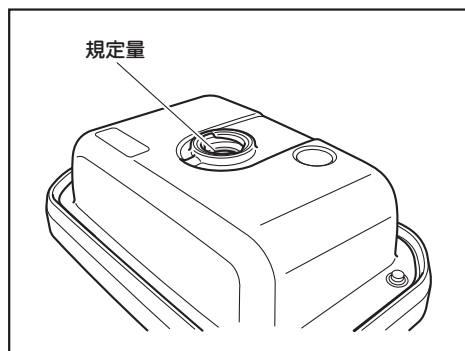


指定燃料：

無鉛レギュラーガソリン

燃料タンク容量：

6.7L



## ⚠ 危険

ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。ガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- 給油時はタバコを吸わないでください。また、他の火気を近づけないでください。
- フューエルタンクキャップを開ける前に車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があります、やけどするおそれがあります。
- 給油作業は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。

## ⚠ 警告

- 給油は、屋外の換気のよい場所で行ってください。
- ガソリンは規定量（燃料タンクの口元まで）以上給油しないでください。
- こぼれたときは、ただちに布きれなどで完全にふき取ってください。
- 給油後は燃料タンクキャップを確実に締めてください。
- ガソリンを飲み込んだり、ガソリン蒸気を吸い込んだり、またはガソリンが目に入ったりした場合は、ただちに医師の診断を受けてください。
- ガソリンが皮膚や衣類にこぼれた場合はただちに石鹸と水で洗い、衣類は取り替えてください。

# 運転する前に点検しましょう

---

## ▲注意

- 必ず指定燃料を使用してください。指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、エンジン不調の原因になる場合があります。
  - タンク内にゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。
- 

## 要 点

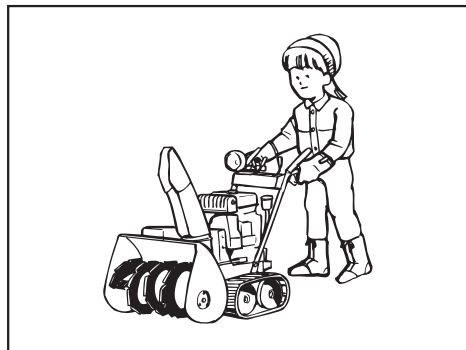
- 燃料はゆっくりと給油してください。
  - 燃料は全部なくなる前に、できるだけ早めに補給してください。
-

# 運転する前に点検しましょう

## エンジンオイルの点検（簡易式）

エンジンオイル量が適量であるか簡易的に点検します。

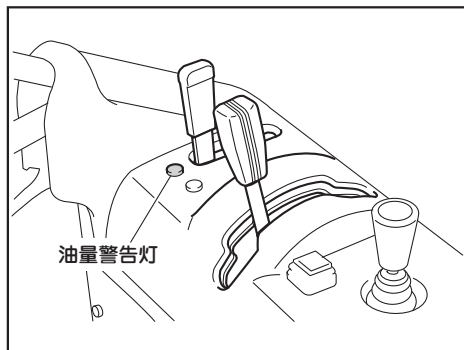
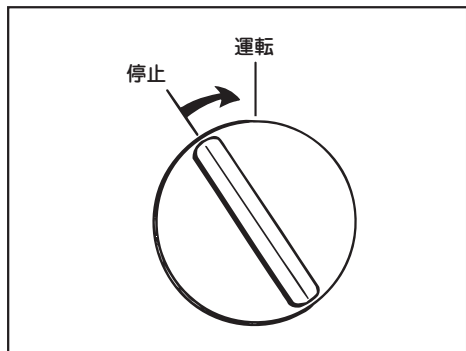
1. 除雪機を平坦な場所に移動し、車体を水平にします。



### 要 点

傾いた場所では、適切なエンジンオイル量の点検ができません。

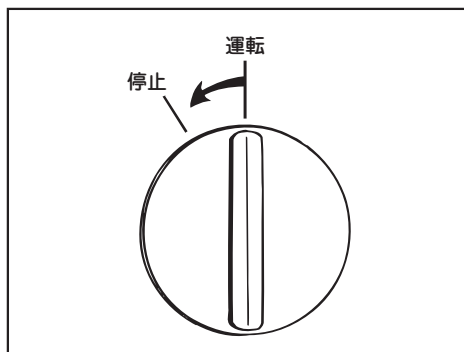
2. エンジンスイッチを“停止”から“運転”にしたときに油量警告灯が点灯しないことを確認します。



### 要 点

- 傾いた場所では、エンジンオイル量が適量でも、油量警告灯が点灯することがあります。
- 油量警告灯の球切れチェックは、エンジンスイッチをゆっくりと“停止”から“運転”にして行います。その間に、油量警告灯が“消灯”から“点灯”そして“消灯”になれば正常です。

3. エンジンスイッチを“運転”から“停止”にします。

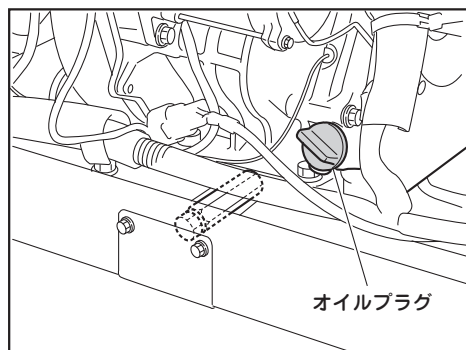


# 運転する前に点検しましょう

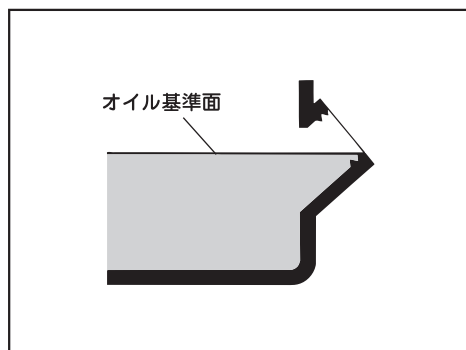
## エンジンオイルの点検

オイルプラグを外し、エンジンオイル量がオイル基準面まであるか点検します。

1. 除雪機を平坦な場所で水平な状態にします。
2. 右サイドカバーを取り外します。
3. オイルプラグを外します。



4. エンジンオイル量がオイル基準面まであるか点検します。



5. エンジンオイル量がオイル基準面より少ない場合は、推奨オイルを注入口の口元まで給油します。

推奨オイル：

ヤマハ純正除雪機専用エンジン  
オイル

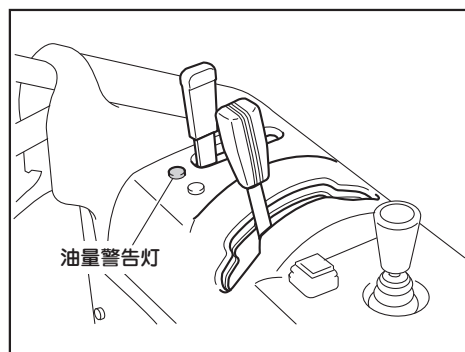
もしくは

4 ストロークガソリンエンジンオイル  
SAE 5W-30 SE 級以上

## 要 点

エンジンオイルがこぼれたときは、ただちに布きれなどでふき取ってください。

6. オイルプラグと右サイドカバーを取り付けます。



## ▲ 注 意

- 除雪機を運転中に油量警告灯が点灯した場合は、できるだけ早めにエンジンを停止してエンジンオイルを補給してください。
- 除雪機運転中の傾きにより、油量警告灯が点灯する場合があります。そのときは除雪機を水平な場所へ移動し、再度油量警告灯が点灯するか確認してください。

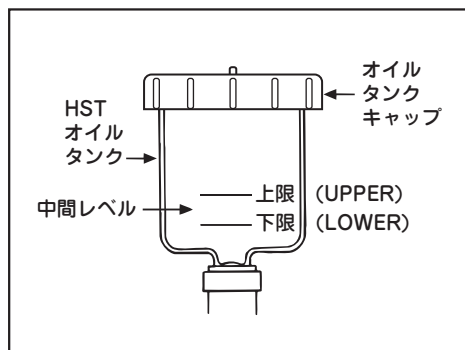
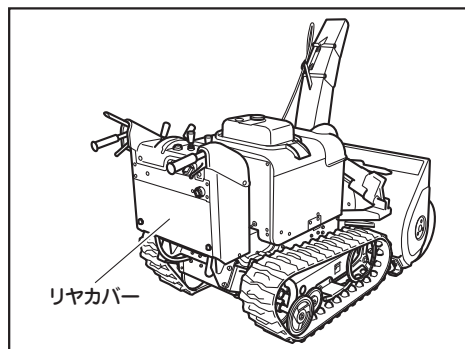


# 運転する前に点検しましょう

## 変速機（HST）オイルの点検

エンジン始動前、変速機（HST）が冷えているときに変速機オイル量を点検します。

1. リヤカバーを外します。



2. 外気温が $-10^{\circ}\text{C}$ ~ $0^{\circ}\text{C}$ のとき、変速機（HST）オイルの油面が中間レベルにあるか点検します。

なお、外気温が約 $-20^{\circ}\text{C}$ 以下のときにはオイルが収縮し、オイルレベルが下限（LOWER）以下になる場合があります。

## ▲注意

除雪作業終了直後には変速機（HST）オイル量の点検をしないでください。

オイルが膨張しており、正確なオイル量の点検ができない場合があります。

## 要 点

- オイル量の点検は、除雪機を水平に行ってください。
  - 変速機（HST）オイルタンクは左右2ヶ所あります。両方共点検してください。
3. オイルが下限（LOWER）レベルより少ない場合は、58ページの手順に従って推奨オイルを規定量まで補充してください。

### 推奨オイル：

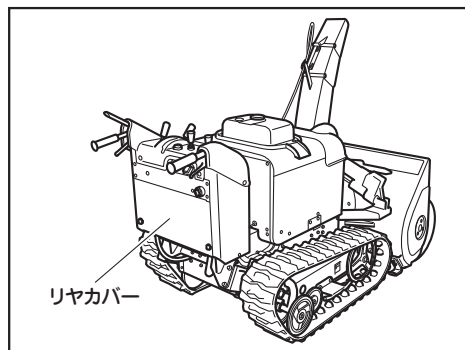
ヤマハ純正無段変速機専用（HST）  
オイル  
もしくは  
ディーゼルエンジンオイル  
SAE 10W-30 CD 級以上

# 運転する前に点検しましょう

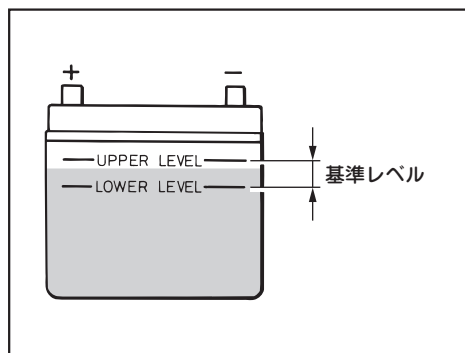
## バッテリー液量の点検

バッテリーの液面が基準レベル内にあるか点検します。

1. リヤカバーを外します。



2. バッテリーの液面が基準レベル内にあるか確認します。



3. 液面が基準レベルより下がっている場合は蒸留水を補給します。
4. キャップの排気孔に詰まりがないか確認します。

## 警告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパーク、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しのよいところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚・目・衣服に付着すると、重大な傷害を受けることがあります。
- 子供の手の届くところに置かないでください。

## 応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

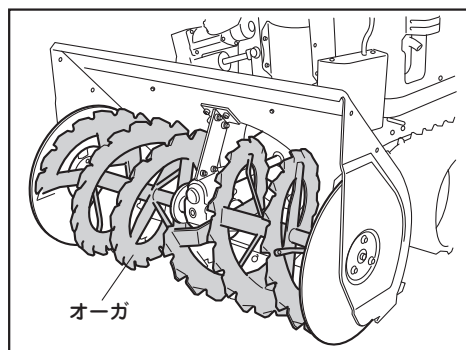
## 要点

定期的（6ヶ月ごと）に比重（1.28以上）を測定し、バッテリーの状態を確認してください。

# 運転する前に点検しましょう

## オーガの点検

オーガに曲がりや変形がないか、異物がからまっていないかを点検します。



## ハンドルのゆるみ、ガタの点検

ハンドルを握って左右に動かし、ハンドルにゆるみやガタがないかを点検します。不具合が認められるときは、ヤマハ販売店に相談してください。

## スタータモータの作動具合の点検

エンジンスイッチを“始動”の位置まで回し、スタータモータが勢よく回るかを点検します。

## エンジンのかかり具合および異音の点検

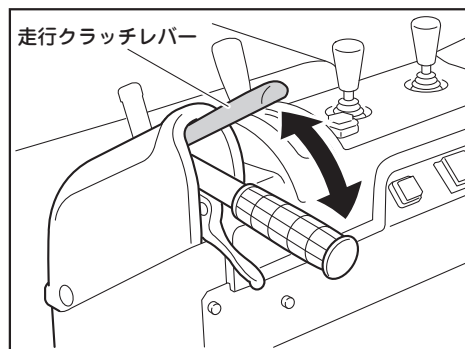
エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。また、エンジンから異音がないかを点検します。

## 排気の状態の点検

エンジン始動後、排気に異常がないかを点検します。

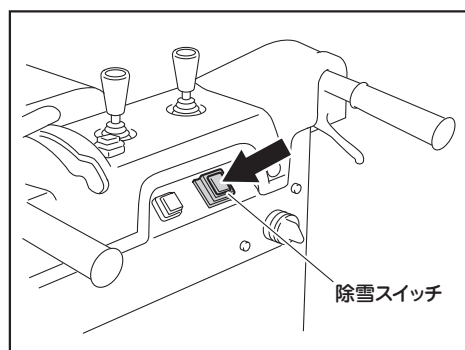
## 走行クラッチの操作具合の点検

エンジン始動後、走行クラッチレバーを操作し、レバーをはなしたときに除雪機の走行が停止するか点検します。(21ページ参照)



## 除雪スイッチ

エンジン始動後、除雪スイッチを操作し、オーガが回転するか点検します。(21ページ参照)



## シュータの作動具合

エンジン始動後、シュータ調整スイッチを操作し、作動に不具合がないかを点検します。(20ページ参照)

# 運転する前に点検しましょう

---

## 前日の作業で異常が認められた箇所 の点検

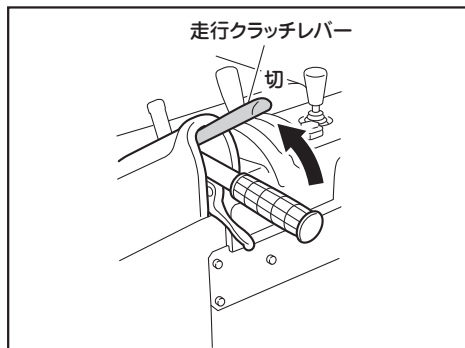
前日の使用で異常が認められた箇所について、使用に支障がないかを点検します。



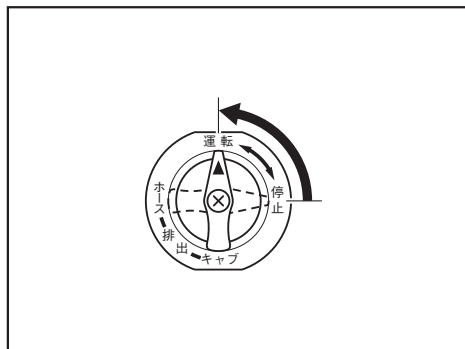
# 正しい運転方法


## エンジンの始動

1. 変速レバーを中立“N”の位置にし、走行クラッチレバーが切の位置にあることを確認します。




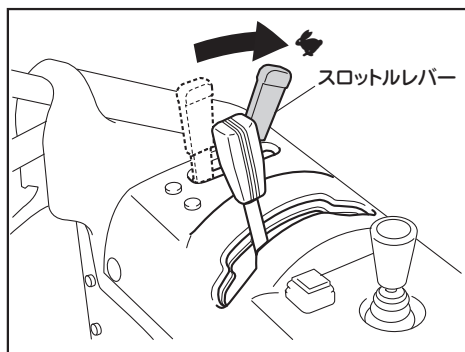
2. 燃料コックを“停止”から“運転”にします。



3. スロットルレバーを“”にします。

### 要 点

エンジンが暖まっているときでも、スロットルレバーを“”にしてください。



# 正しい運転方法

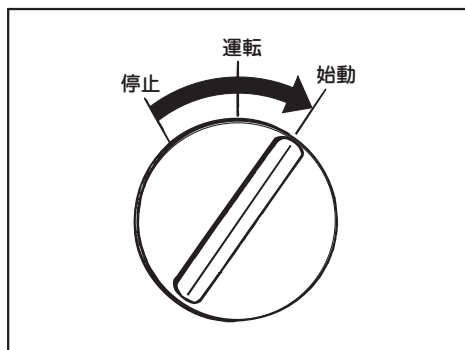
4. エンジンスイッチを“始動”の位置まで回し、エンジンを始動します。  
エンジンが始動したらキーから手をはなしてください。自動的に“運転”の位置に戻ります。

## ▲注意

- エンジンスイッチを“運転”の位置にしたときに油量警告灯が点灯した場合は、エンジンオイルが不足していますのでエンジンオイルを補給してください。
- 除雪機の傾きにより、油量警告灯が点灯する場合があります。そのときは除雪機を水平な場所に移動し、再度油量警告灯が点灯するか確認してください。

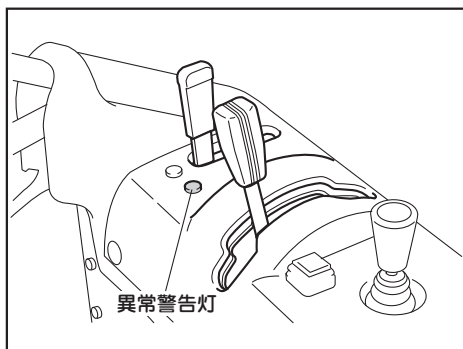
## 要 点

- “停止”と“運転”の間にして油量警告灯が点灯することを確認してください。(球切れチェック)  
点灯しない場合は販売店にご相談ください。
- エンジンスイッチを回して5秒以内でエンジンが始動しないときは、バッテリー回復のため10秒ほど休んでから再度回してください。

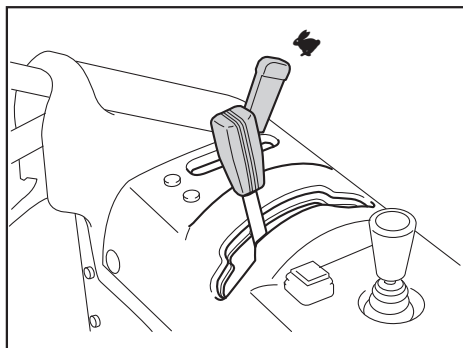


## ▲注意

- エンジンスイッチを“運転”の位置にしたときに異常警告灯が点灯から消灯になるかを確認します。(球切れチェック)。
- “運転”の位置で異常警告灯が点滅した場合は、点滅パターン(79ページ参照)を確認後、販売店にご連絡ください。



5. エンジン回転数が安定したら除雪作業を開始します。

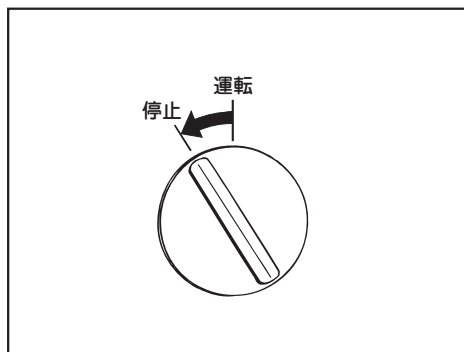


# 正しい運転方法

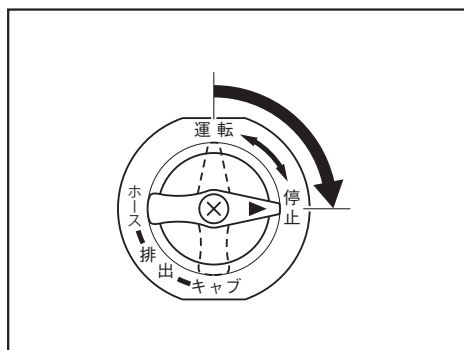
---

## エンジンの停止

1. エンジンスイッチを“停止”の位置にします。



2. 燃料コックを“停止”の位置にします。



### ▲ 警告

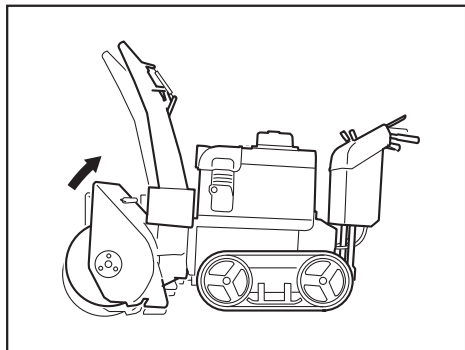
- 除雪機は水平な場所に駐車してください。
- やむをえず傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、除雪機の転倒、動き出しのないように、充分注意してください。
- エンジン停止直後はエンジン本体やマフラーが熱くなっています。直接触れないでください。



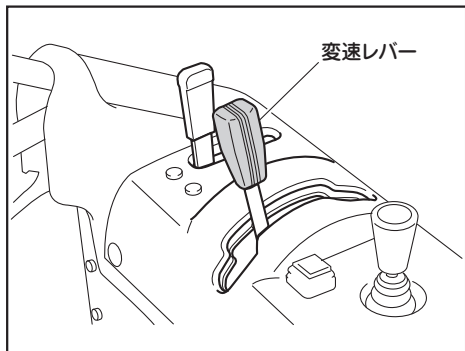
# 正しい運転方法

## 移動をするとき

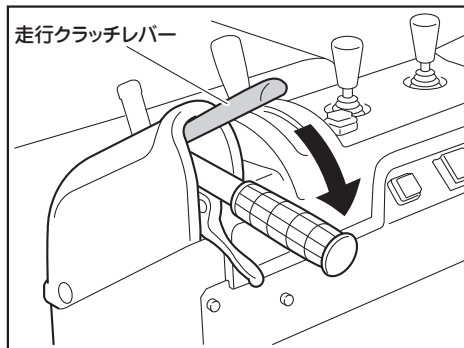
1. オーガハウジング高さ調整スイッチ (YS1390A)、またはオーガハウジング高さ・角度調整スイッチ (YS1390AR) でオーガを最大に上げた位置に調整します。



2. 変速レバーを中立“N”にします。



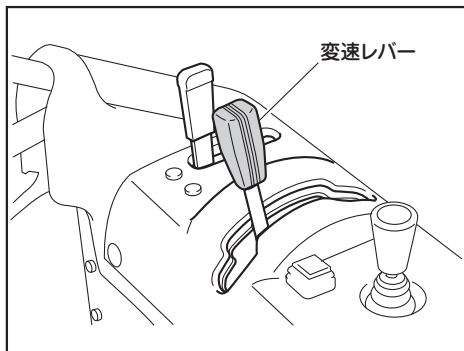
3. 走行クラッチレバーを握ります。



4. 変速レバーを中立“N”から最適な速度の位置にします。

### ▲注意

変速レバーはゆっくりと操作してください。



# 正しい運転方法

## 進行方向を変えるとき

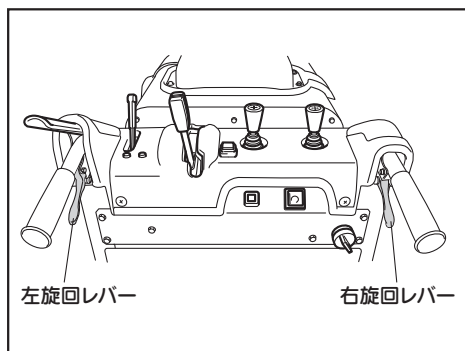
旋回する方向の旋回レバーを引きます。

### 右に曲がるとき：

右旋回レバーを引き、引いた状態を保持します。

### 左に曲がるとき：

左旋回レバーを引き、引いた状態を保持します。



## 要 点

レバーの握り量で曲がり量が変わります。車速が速いときは、いっぱい握っても急旋回しないようになっています。



## エンジンを停止して移動するとき

新車配送や屋内移動などの場合に利用します。

## ▲ 注 意

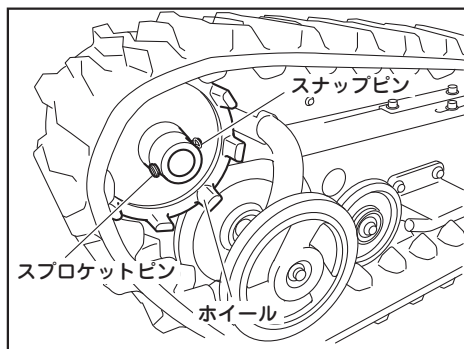
- エンジンは始動させないでください。
- 作業は平坦地で行ってください。

1. スナップピンを抜いてスプロケットピンを抜きます。

## 要 点

スプロケットピンは左右とも抜いてください。

2. ホイールが空回りしますので、ハンドルを握って本体を押したり引いたりして移動させます。
3. 移動が完了したら左右のピンは元の穴に戻します。



# 正しい運転方法

## 除雪作業をするとき

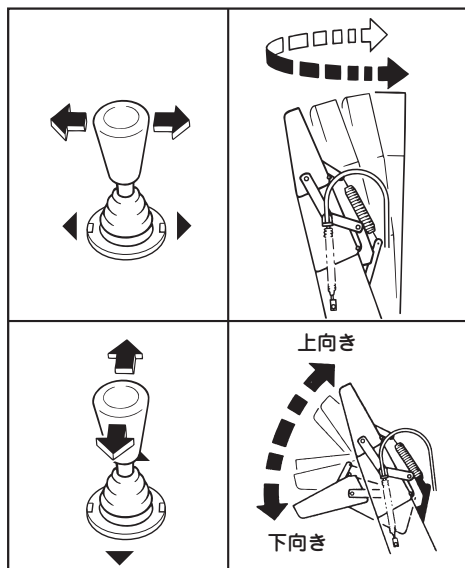
### ▲警告

- 投雪口を人や建物、自動車に向けないでください。
- インペラ、オーガ、トラック（クローラ）に異物が巻きついたときはすぐにエンジンを停止し、異物を取り除いてください。除雪機に損傷がないか点検し、損傷が認められる場合は完全に修理した後、使用してください。

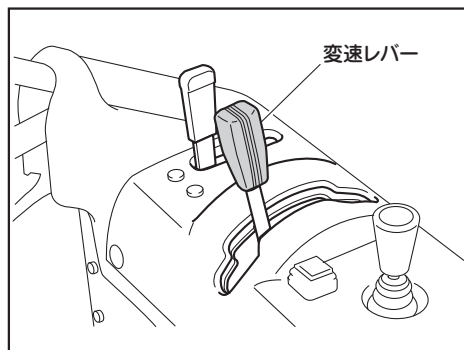
### 要 点

らくらく除雪機能を使用すると便利です。  
(30ページ参照)

1. シュータ調整スイッチを操作して投雪方向を決め、雪を飛ばす距離を調整します。  
あわせてオーガの高さ（YS1390A）、オーガの高さ・角度（YS1390AR）を調整します。



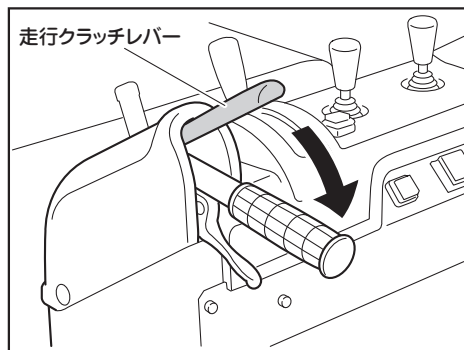
2. 変速レバーを中立“N”にします。



3. 走行クラッチレバーを握ります。

### ▲警告

投雪方向が安全か確認してからレバーを握ってください。

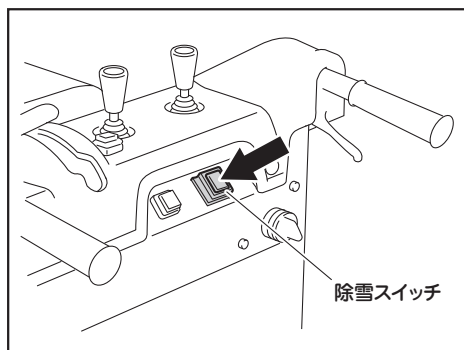


# 正しい運転方法

4. 走行クラッチレバーを握ったまま除雪スイッチを押すとオーガが回転し、走行と除雪作業ができます。右手で変速レバー、シュータ調整スイッチなどが操作できます。

## 要 点

除雪スイッチを再度押せば、オーガの回転だけを止めることができます。



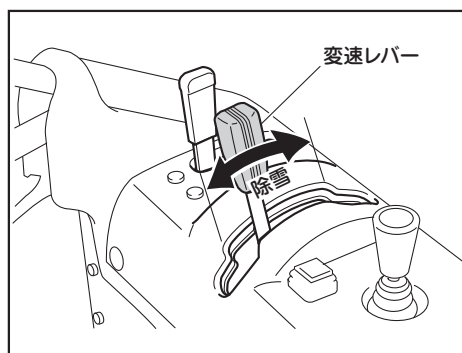
5. 変速レバーを“前進”の方向にします。  
なお、遅めの速度の方が除雪跡がきれいになります。

## ▲注意

変速レバーはゆっくりと操作してください。

## 要 点

- 変速レバーは“除雪”の範囲で使用してください。
- 除雪中にエンジン回転数が下がりすぎて雪が飛ばないときは、走行速度が速すぎますので減速してください。
- らくらく除雪機能（オートスピードコントロール機能）を使用すると、自動で減速・増速します。



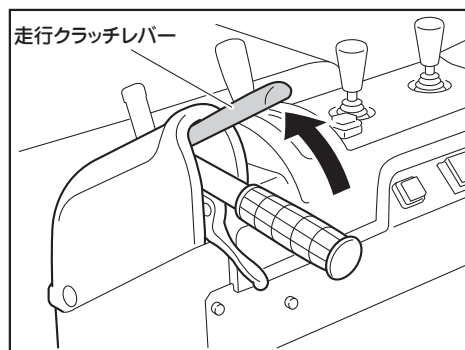
# 正しい運転方法

6. 除雪作業中に異常が発生すると、異常警告灯が点滅したり、油量警告灯が点灯する場合があります。

## ▲注意

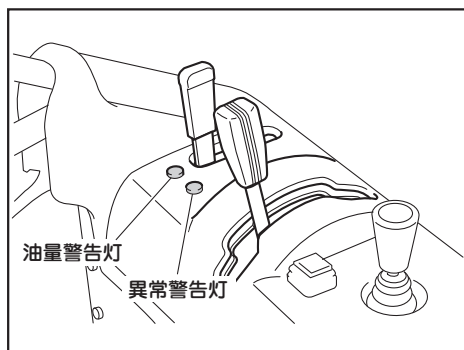
- 除雪作業中に異常警告灯が点滅した場合はエンジンを停止し、販売店にご連絡ください。(79ページ参照)
- 除雪作業中に油量警告灯が点灯した場合は、できるだけ早めにエンジンを停止してエンジンオイルを補給してください。
- 除雪作業中の傾きにより、油量警告灯が点灯する場合があります。そのときは除雪機を水平な場所に移動し、再度油量警告灯が点灯するか確認してください。

7. 走行クラッチレバーから手をはなすと、オーガの回転および除雪機の走行が停止します。



## 要 点

除雪中・移動中に異常が発生した場合は、安全上除雪機が停止します。(ただし、点滅パターン長5の異常は除きます)あるいは過大な負荷が発生した場合にも除雪機を保護するために異常と判断し、除雪機が停止する場合があります。



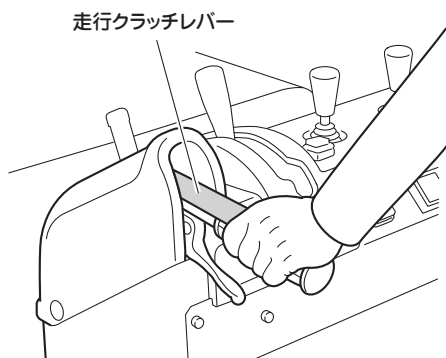
# 正しい運転方法

## デッドマンクラッチ

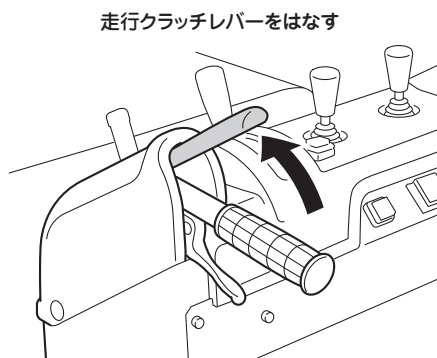
安全機構のデッドマンクラッチ機構により、除雪中または走行中に走行クラッチレバーから手をはなせば、オーガの回転と除雪機の走行が自動停止します。

### ⚠危険

走行クラッチレバーを絶対に固定しないでください。安全機構が機能しなくなり、死亡や重傷など重大事故になるおそれがあります。



作業可能  
右手で各部操作可能



緊急停止  
作業終了

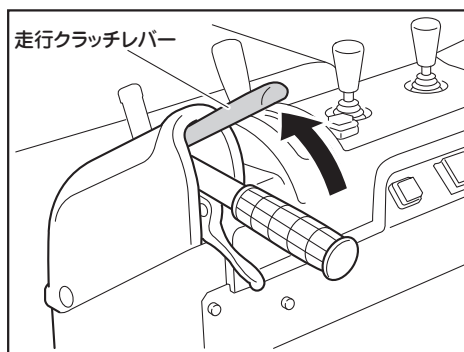
# 正しい運転方法

## 除雪作業を停止するとき

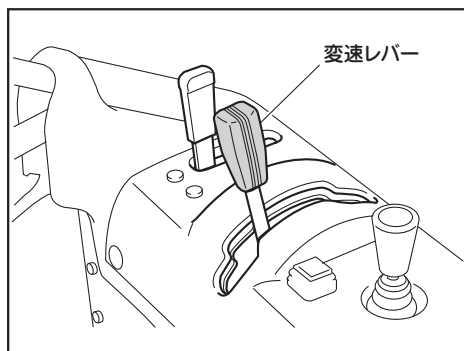
### ▲警告

- 除雪機は水平な場所に駐車してください。
- やむをえず傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、除雪機の転倒、動き出しのないように、充分注意してください

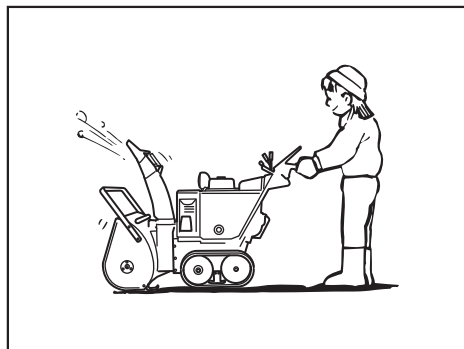
1. 走行クラッチレバーから手をはなします。



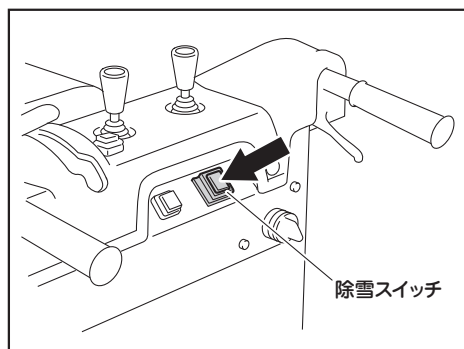
2. 変速レバーを中立“N”にします。



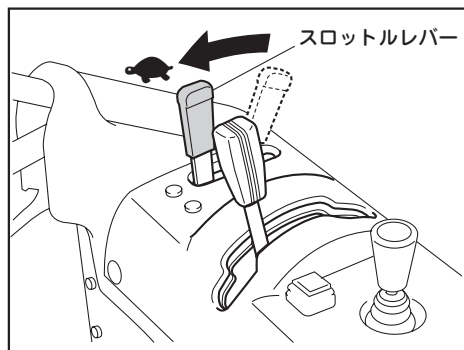
3. プロア凍結防止のため、除雪スイッチを押してオーガ・プロアを空転させて内部の雪を飛ばします。



4. 除雪スイッチを再度押します。



5. スロットルレバーを“🐢”にします。



# やさしい点検と整備

---

## 点検の おすすめ

いつまでも安全・快適に  
ご使用いただくために

### ▲警告

- 点検・整備を怠ると事故やトラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 安全使用のため、ご自身の知識、技量に合わせた範囲で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。

点検・整備を行うときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検・整備は平坦な足場のしっかりした場所で行ってください。
- 点検・整備を行うときは、エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜いてください。
- エンジン停止直後はエンジン本体やマフラーなどが熱くなっています。やけどに注意してください。
- 異常が認められたときは、ご使用の方ご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

### ▲注意

点検を怠ると不具合の原因となる場合があります。また保証を受けられない場合がありますので注意してください。

---

## 使用前点検

ご使用前にお客様ご自身によって行っていただく点検です。(33ページ参照)  
点検箇所に異常が認められたときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

## 定期点検

お客様のお申しつけにより、お買いあげのヤマハ販売店が実施します。  
お客様の責任で必ず点検を受けてください。

初回点検……………お買いあげ日から1ヶ月目

格納点検……………6ヶ月ごと

季節前点検……………12ヶ月ごと



# やさしい点検と整備

## 点検項目

使用前、定期点検の際には以下の項目を点検します。

季節後の格納点検および季節前点検はヤマハ販売店にご用命ください。

### ▲警告

事故防止のため、エンジンを停止して行う作業の場合はエンジンスイッチのキーを抜いてください。

## メンテナンスチャート

点検・整備項目		点検整備時期				備考	
		使用前点検	初回(1ヶ月)	格納(6ヶ月)	季節前(12ヶ月)		
かし取り装置	ハンドル	ゆるみ、ガタ	○	○	○	○	
	旋回レバー	操作具合	○				
除雪装置	操作装置	スロットルレバーの操作具合		○	○	○	
		オーガクラッチの操作具合、作動状態		○	○	○	
		走行クラッチの操作具合、作動状態	○	○	○	○	
	スキッド	取付状態、平行度		○	○	○	
	オーガ高さ調整機構	作動状態		○	○	○	
	オーガおよびプロア	取付状態、曲がり	○		○	○	
		ベルトの点検			○	○	
	シュータ	作動状態	○		○	○	
ゆるみ、ガタ		○	○	○	○		
樹脂部の摩耗、亀裂、割れ		○	○	○	○		
動力伝達装置	トラック(クローラ)	張り		○	○	○	
	ウォームホイール	オイルの交換		○		○	
	走行用ベルト	ベルトの点検			○	○	
変速装置	変速機	オイルタンクのオイル量	○				
		オイル漏れ			○	○	

# やさしい点検と整備

点検・整備項目			点検整備時期				備考	
			使用前点検	初回(1ヶ月)	格納(6ヶ月)	季節前(12ヶ月)		
電気装置	エンジンスイッチ	作動具合		○	○	○		
		油量警告灯の球切れ確認	○					
	点火装置	スパークプラグの点検		○	○	○		
	バッテリー	液量、比重			○	○		
原	本	体	セルスタータの作動具合	○	○	○	○	
			エンジンのかかり具合および異音	○	○	○	○	
			定格回転数の測定		○	○	○	
			排気の状態	○	○	○	○	
			圧縮圧力				○	
			バルブクリアランス				○	
			シリンダヘッド部のカーボン除去				○	
動	潤滑装置	オイル漏れ				○		
		エンジンオイルの量	○					
		エンジンオイルの交換		○		○		
機	燃料装置	燃料漏れ			○	○		
		キャブレタスロットルバルブ			○	○		
		チョークバルブの状態			○	○		
		キャブレタ調整の状態			○	○		
		燃料の量	○					
		フューエルホースの交換					4年ごと	
そ の 他	マフラー	取付部のゆるみ			○	○		
		マフラーの機能				○		
	ボディ	亀裂損傷および各部の締め付け				○		
		各部の給油脂		○	○	○		
他	前日の作業で異常が認められた箇所		○					
	異常警告灯の球切れ確認		○					
	異常警告灯の点滅確認		○					

# やさしい点検と整備

## エンジンオイルの交換

### ▲警告

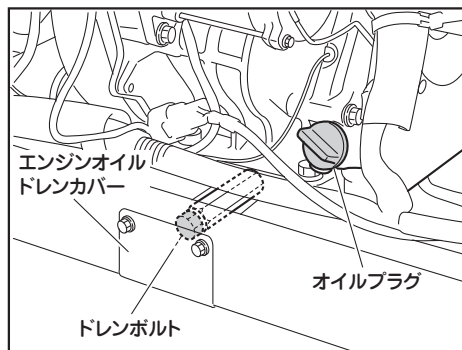
- 除雪機を平坦な場所で水平な状態にしてください。
- エンジン停止直後はオイルが熱くなっていますので、すぐに排出しないでください。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。

### 要 点

- 油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられていますので、ヤマハ販売店へ相談してください。
- 初回は20時間目（燃料4回補給時）、その後はシーズン初めごとに交換してください。

1. エンジンを始動し、2～3分間暖機運転します。
2. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
3. 右サイドカバーを外します。

4. 排出するエンジンオイルを受ける容器をドレンボルトの下に用意します。
5. オイルプラグ、エンジンオイルドレンカバー、ドレンボルトを外してエンジンオイルを抜きます。



6. ドレンボルトを締め付け、エンジンオイルドレンカバーを取り付けます。

## やさしい点検と整備

---

7. 新しいエンジンオイルを注入口の口元（オイル基準面）まで給油します。

オイル量：

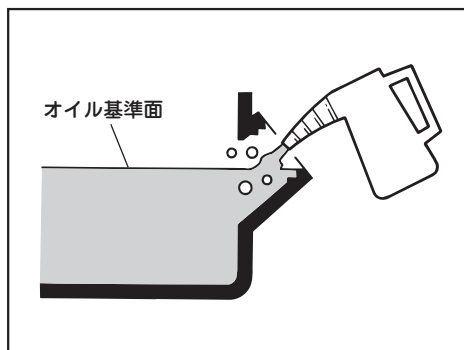
1.1L (1100cm<sup>3</sup>)

推奨オイル：

ヤマハ純正除雪機専用エンジン  
オイル

もしくは

4 ストロークガソリンエンジンオイル  
SAE 5W-30 SE 級以上



### 要 点

こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

---

8. オイルプラグを締め付けます。  
9. 右サイドカバーを取り付けます。

# やさしい点検と整備

## 変速機（HST）オイルの補給

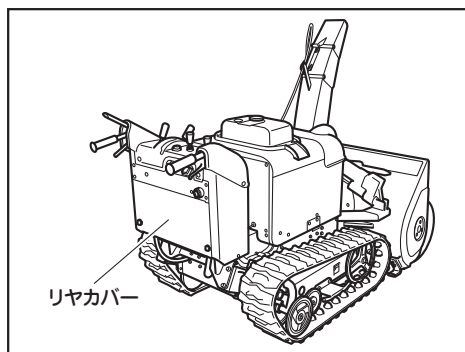
### ▲警告

除雪機を平坦な場所で水平な状態にしてください。

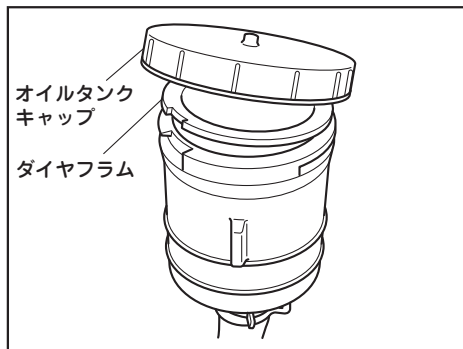
### 要 点

- 油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられていますので、ヤマハ販売店へ相談してください。
- 変速機（HST）オイルタンクは左右2個あります。両方共補給してください。

1. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
2. リヤカバーを外します。



3. オイルタンクキャップとダイヤフラムを取り外します。



# やさしい点検と整備

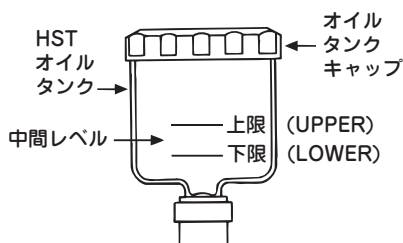
4. 変速機オイルをHSTオイルタンクの上限 (UPPER) レベルと下限 (LOWER) レベルの間になるまで補給します。

## ▲注意

- 補給時、タンクの中にゴミなどの異物が入らないように充分注意してください。
- 指定オイル以外は使用しないでください。

推奨オイル：

ヤマハ純正無段変速機専用 (HST) オイル  
もしくは  
ディーゼルエンジンオイル  
SAE 10W-30 CD 級以上



5. ダイヤフラムとオイルタンクキャップを確実に取り付けます。
6. リヤカバーを取り付けます。

## ウォームケースオイルの交換

ウォームケースオイルの交換が必要なときは、ヤマハ販売店に交換を依頼してください。

## 要 点

初回は20時間目 (燃料4回補給時)、その後はシーズン初めごとに交換してください。

# やさしい点検と整備

## スパークプラグの点検・清掃

スパークプラグは比較的簡単に点検ができる重要部品です。使用によりスパークプラグは徐々に劣化しますので、定期的に外して点検を行う必要があります。

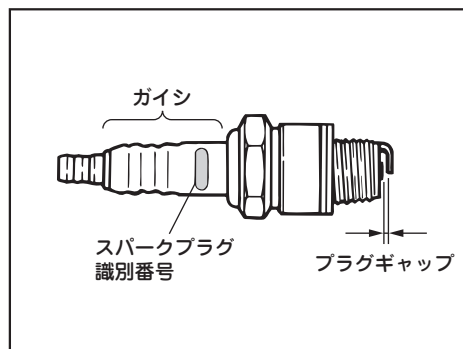
### ▲警告

- エンジン停止直後はエンジン本体やマフラーなどが熱くなっています。やけどに注意してください。
- スパークプラグの脱着の際は、ガイシを損傷させないように注意してください。ガイシが損傷すると、漏電により火災などを誘発するおそれがあります。

1. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
2. 左サイドカバーを外します。
3. スパークプラグキャップを取り外します。
4. プラグレンチを使ってスパークプラグを取り外します。
5. スパークプラグの焼け具合を点検します。  
通常はキツネ色に焼けますが、黒くくすぶっていたり白く焼けすぎているときは、ヤマハ販売店に相談してください。
6. プラグクリーナーもしくはワイヤブラシを使用し、電極付近の汚れ（カーボン）を落とします。

7. プラグキャップを点検します。

スパークプラグ：NGK BPR4ES  
プラグギャップ：0.7～0.8mm



## やさしい点検と整備

---

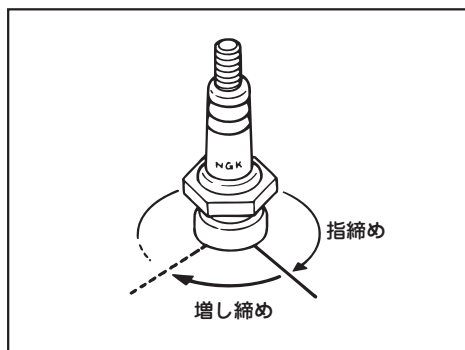
8. スパークプラグを取り付けます。

締付トルク：  
18N・m (1.8kgf・m)

### 要 点

スパークプラグを取り付ける際にトルクレンチが準備できないときは、スパークプラグを指でいっぱいまで締め込んだ後、プラグレンチを使ってさらに1/4～1/2回転締め込んでください。できるだけ早い時期にトルクレンチを使って、正規のトルクで締めてください。

---



9. スパークプラグキャップを取り付けます。

10. 左サイドカバーを取り付けます。



# やさしい点検と整備

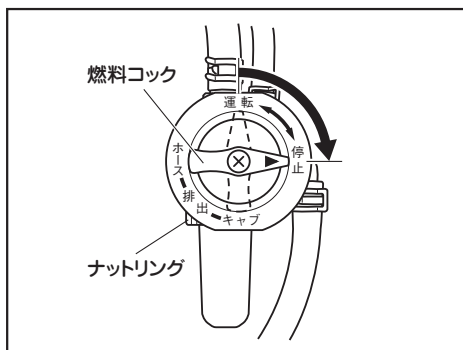
## フューエルストレナーの清掃

### ⚠危険

ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。ガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

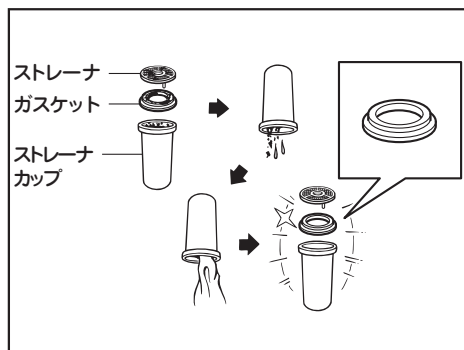
- 作業中はタバコを吸わないでください。また、他の火気を近づけないでください。
- 作業前は本機の金属部分に触れるなどして身体に帯電した静電気を除去してください。

1. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
2. 左サイドカバーを外します。
3. 燃料コックを“停止”位置にします。



4. ナットリングを取り外し、ストレナーカップ、ガスケット、ストレナーを取り外します。

5. ストレナーカップとストレナーを清掃し、ガソリンで洗浄します。



6. ガスケットを点検し、破損や膨潤している場合は新品と交換します。
7. ストレナー、ガスケット、ストレナーカップ、ナットリングを取り付け、ナットリングを締め付けます。

### 要 点

ガスケットは図の向きにして取り付けます。

### ⚠警告

取り付けは、注意深く行ってください。取り付けが悪いと燃料漏れをおこし、火災や爆発の原因になるおそれがあります。

8. 取り付け後、燃料コックを“運転”位置に回して燃料漏れがないことを確認します。
9. 左サイドカバーを取り付けます。

# やさしい点検と整備

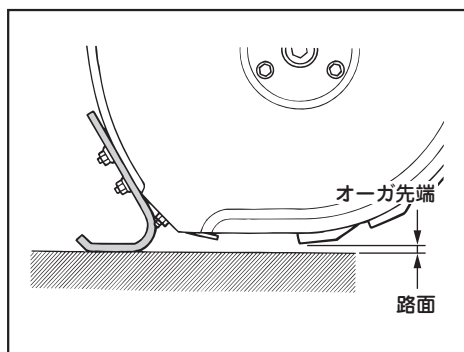
## スキッドの調整

### ▲警告

除雪機を平坦な場所で水平な状態にしてください。

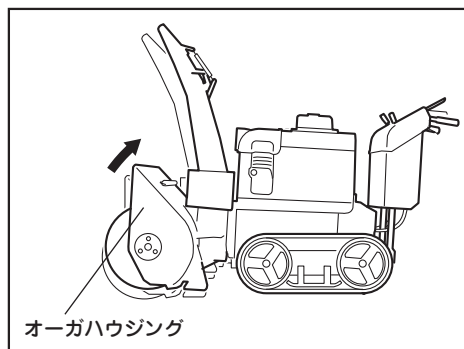
路面の状態に合わせて、路面とオーガ先端とのすき間の調整をします。

1. 路面とオーガ先端とのすき間を点検します。

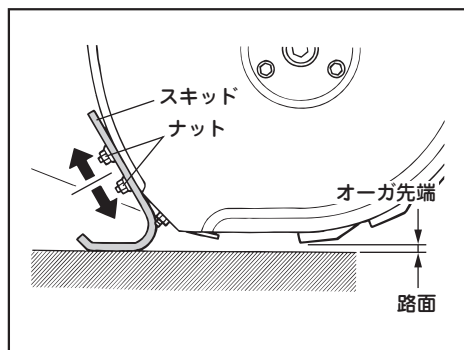


	路面とオーガ先端のすき間
工場出荷時 (標準位置)	5mm
コンクリート、 アスファルト路	小さくする
小石路、 砂利道	大きくする

2. エンジンを始動し、オーガハウジング高さ調整スイッチでオーガハウジングを浮かせます。



3. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
4. スキッド取付ナットをゆるめます。



5. スキッドを上下に動かして高さを調整し、スキッド取付ナットを仮締めします。
6. エンジンを始動し、オーガハウジング高さ調整スイッチでオーガハウジングを路面に接地させます。

# やさしい点検と整備

---

7. エンジンを停止してエンジンスイッチキーを抜き、路面とオーガ先端とのすき間を点検します。

## ▲警告

路面とオーガ先端のすき間を小さくし過ぎると、オーガの回転が路面に伝わり、除雪機が前に進むことがあります。

---

## ▲注意

路面とオーガ先端のすき間を小さくし過ぎると、オーガの摩耗が早くなったり路面を傷付けたりすることがあります。

---

## 要 点

- 左右のスキッドの高さが均等になるように調整してください。
  - スキッドは消耗品となります。交換時期は、ヤマハ販売店に相談してください。
- 

8. スキッド取付ナットを確実に締め付けます。

締め付トルク：  
16N・m (1.6kgf・m)

# やさしい点検と整備

## シャーボルトの交換

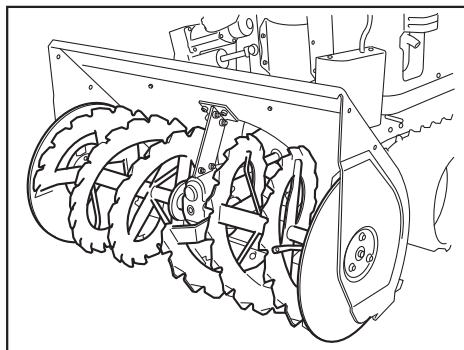
### ⚠ 危険

- インペラ、オーガ回転中は中をのぞいたり、手を入れたりしないでください。
- 回転部に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜き、各部が完全に停止してからスノーバー（雪かき棒）を使用して行ってください。

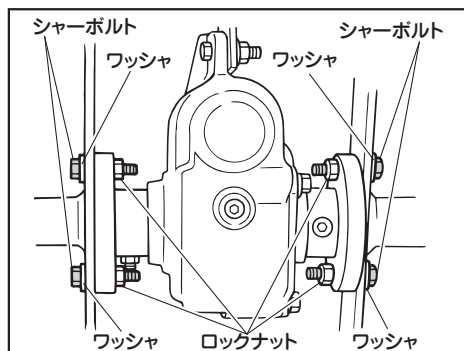
### ⚠ 警告

- 除雪機を平坦な場所で水平な状態にしてください。
- 手袋をはめて作業を行ってください。

1. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
2. オーガハウジング内の雪、異物などを必ずスノーバー（雪かき棒）で取り除きます。



3. ロックナットを取り外し、シャーボルトとワッシャを取り外します。



4. 新しいシャーボルトとワッシャに交換します。
5. ロックナットを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

締め付トルク：  
19N・m (1.9kgf・m)

### 要 点

- シャーボルトはしっかり締め付けてください。シャーボルトの締め付けが不十分ですと、シャーボルトが損傷しやすくなります。
- シャーボルトは純正部品をご使用ください。(26ページ参照)

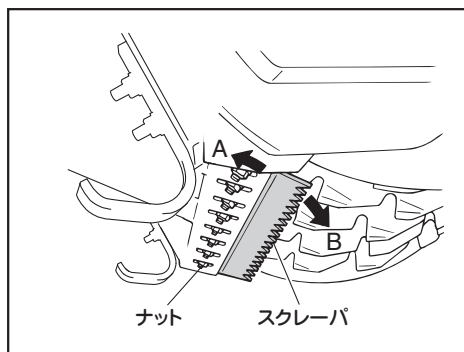
# やさしい点検と整備

## スクレーパの調整

### ▲警告

除雪機を平坦な場所で水平な状態にしてください。

1. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
2. スクレーパ取付ナット（8本）をゆるめます。

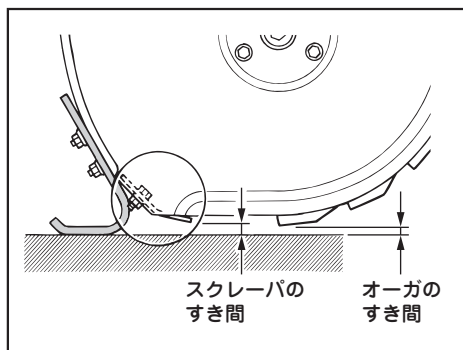


3. スクレーパを動かし、路面とのすき間を調整します。

	すき間
A 方向	大きくなる
B 方向	小さくなる

### 要 点

- スクレーパと路面とのすき間は、オーガのすき間と同じが、大きくなるように調整してください。
- スクレーパは消耗品となります。交換時期は、ヤマハ販売店に相談してください。



4. スクレーパ取付ナットを締め付けます。

締付トルク：

21N・m (2.1kgf・m)

### 要 点

スクレーパは水平になるようにして締め付けてください。

# やさしい点検と整備

## トラック（クローラ）の張りの点検と調整

トラック（クローラ）の張りが適正か点検します。

トラック（クローラ）の張りが適正でないとしりっぴやトラック（クローラ）の外れなどの原因になりますので、規定量から外れているときは調整してください。

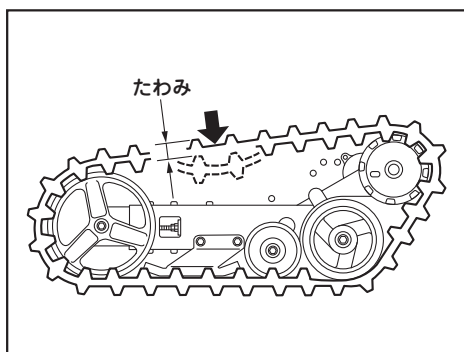
### ▲ 警告

除雪機を平坦な場所で水平な状態にしてください。

### 点検のしかた

1. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
2. トラック（クローラ）の中心部を手で押し（10kgf程度の力）、たわみ量を点検します。

たわみ規定量：  
20～30mm / 10kgf



### 要 点

トラック（クローラ）の摩耗、傷の点検も同時に行ってください。

### 調整のしかた

1. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
2. 左右各4本のボルトをゆるめます。
3. ロックナットをゆるめ、アジャストナットで張りを調整します。



	張り
A 方向	ゆるくなる
B 方向	きつくなる

### 要 点

アジャストナットはトラックの張りが左右均等になるように締め付けてください。

4. ボルトとロックナットを締め付けます。

締め付トルク：  
ボルト：47N・m (4.7kgf・m)  
ロックナット：47N・m (4.7kgf・m)

# やさしい点検と整備

## バッテリー液の点検

### ▲警告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパーク、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しのよいところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚・目・衣服に付着すると、重大な傷害を受けることがあります。
- 子供の手の届くところに置かないでください。

### 応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

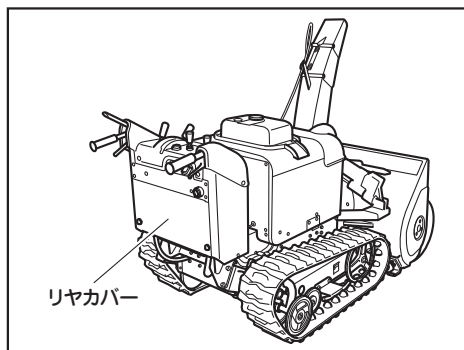
### 要 点

定期的（6ヶ月ごと）に比重（1.28以上）を測定し、バッテリーの状態を確認してください。

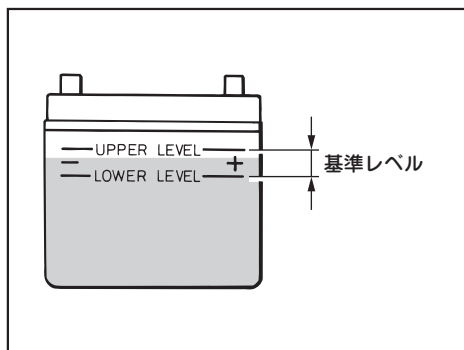
### ▲警告

除雪機を平坦な場所で水平な状態にしてください。

1. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
2. リヤカバーを外します。



3. バッテリーの液面が基準レベル内にあるか点検します。



4. 液面が基準レベルより下がっている場合は蒸留水を補給します。
5. キャップの排気孔に詰まりがないか点検します。詰まりが生じている場合は、ヤマハ販売店に相談してください。
6. リヤカバーを取り付けます。

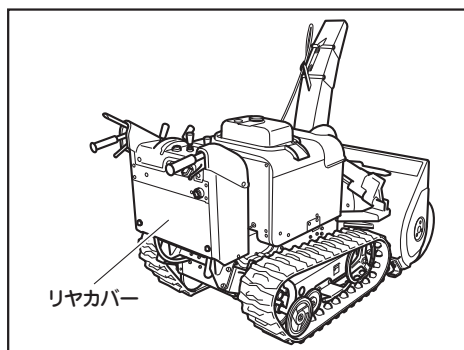
# やさしい点検と整備

## ヒューズの交換

### ▲注意

- 容量の違うヒューズやヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 指定容量を超えるヒューズを使用すると配線の過熱、焼損の原因になりますので絶対に使用しないでください。
- 洗車時ヒューズまわりに水を強く吹き付けることは避けてください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。

1. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
2. リヤカバーを外します。



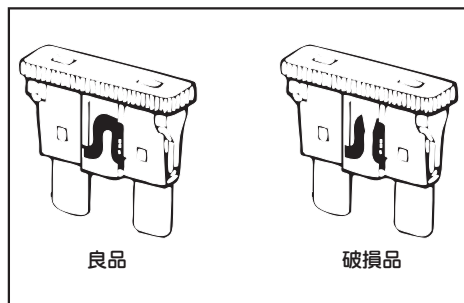
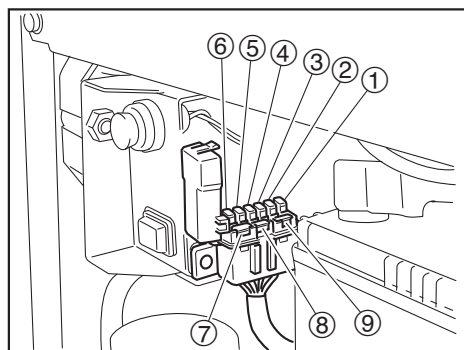
3. 破損したヒューズ①～⑤を取り外し、良品のヒューズ⑥～⑨（予備ヒューズ）と交換します。使用したヒューズは補充しておきます。

タイプ：

ミニチュアタイプ

容量：

シグナル	①	5A
ECU	②	15A
メイン	③	25A
モータ	④	30A
チャージ	⑤	30A
予備	⑥	30A
	⑦	25A
	⑧	15A
	⑨	5A



### 要 点

ヒューズを交換してもすぐ切れる場合は、他の部品に不具合があります。原因を調べて修理するか、ヤマハ販売店に相談してください。

4. リヤカバーを取り付けます。



# やさしい点検と整備

---

## スプロケットピンの交換

走行中に路面の凹凸や溝にトラック（クローラ）がはさまり込んだときなど、万一駆動系に過剰な負荷が掛かった場合、スプロケットピンが折れて車体内部を保護します。

スプロケットピンが折損した場合は交換してください。

### ▲警告

除雪機を平坦な場所で水平な状態にしてください。

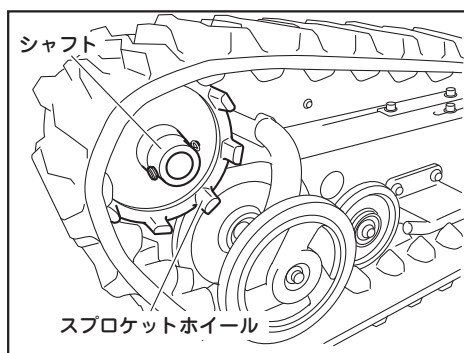
---

1. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
2. スプロケットホイール、シャフト内に折れたスプロケットピンが残っている場合は取り除きます。（47ページ参照）
3. 新しいスプロケットピン、スナップピンを取り付けます。

### 要 点

交換部品は純正部品をご使用ください。

---



# やさしい点検と整備

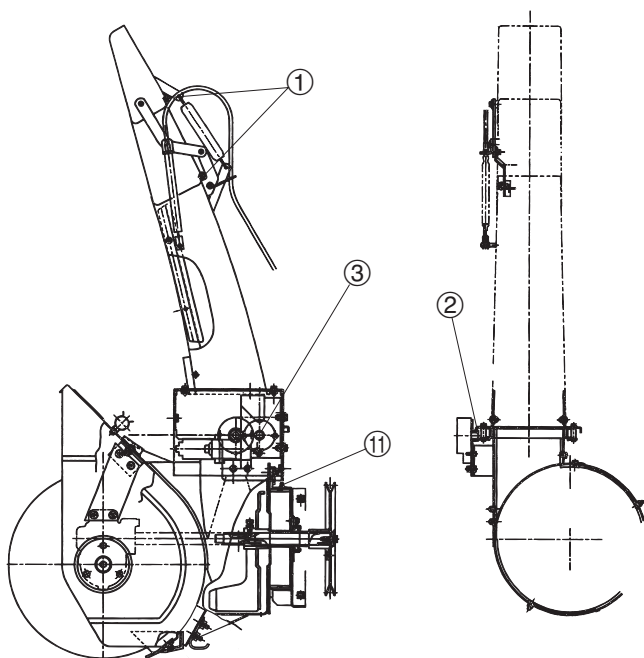
## 各部の給油

ご使用1ヶ月または10時間ごとに各操作部の軸部にグリスまたはガソリンエンジンオイル（SAE5W-30）を給油してください。

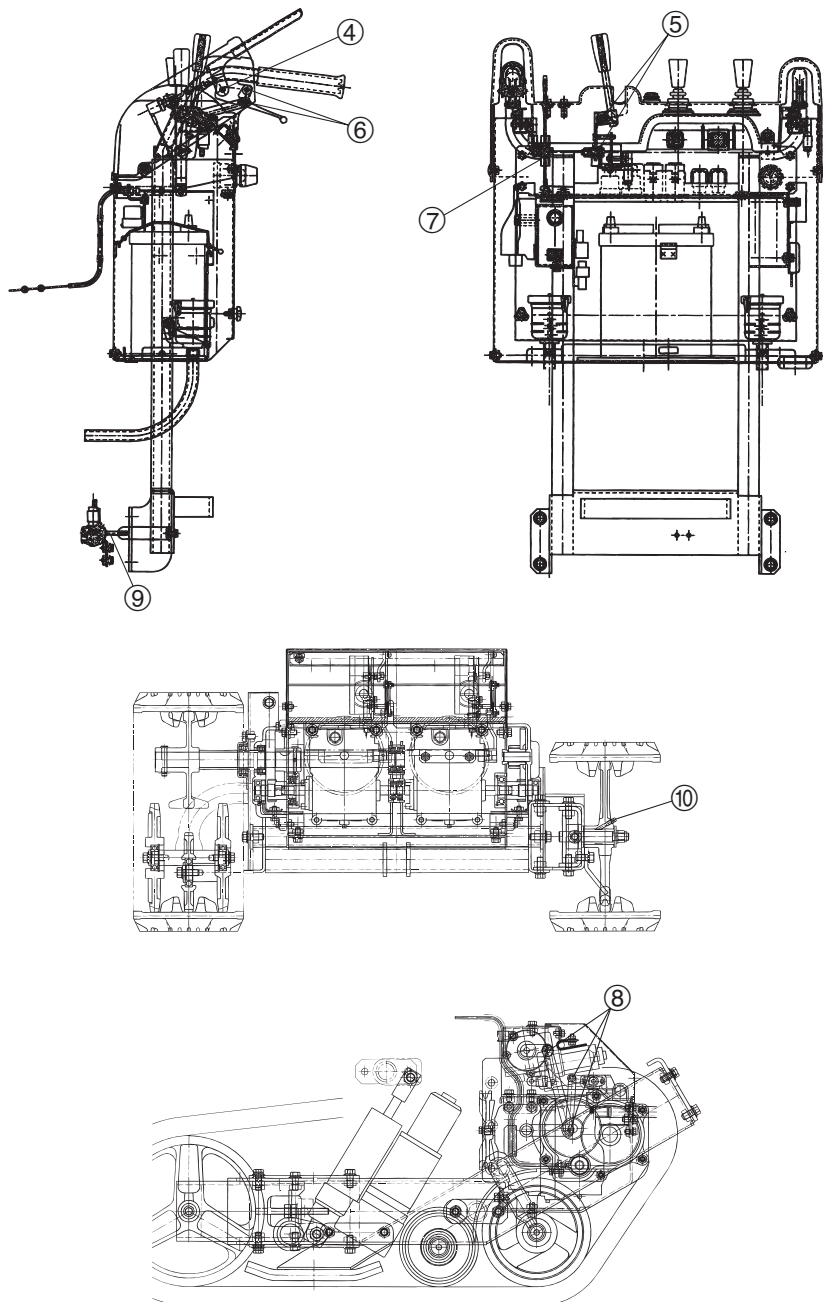
- デフレクタ摺動部①
- 回転用シュートモータギヤとリングギヤ部②
- 高さ調整用シュートモータギヤ部③
- クラッチレバー摺動部④
- 各ケーブルインナエンド部
- 変速レバー摺動部⑤
- 旋回レバー摺動部⑥
- スロットルレバー摺動部⑦
- HSTリンク廻り摺動部⑧
- チルトセンサ廻り摺動部⑨
- ガイドホイールグリスニップル⑩
- ローリング部グリスニップル（YS1390AR）⑪

## 要 点

ご使用1ヶ月および10時間とは「1日20分間の運転で30日間の使用」を目安としてください。



# やさしい点検と整備



# 保管・格納

---

保管・格納時の点検整備は、お買いあげのヤマハ販売店に相談してください。  
ご自身で実施する場合は、ガソリンの取り扱いに注意して次の手順で実施してください。

## ⚠ 危険

---

ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。ガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- 作業中はタバコを吸わないでください。また、他の火気を近づけないでください。
  - 作業前は本機の金属部分に触れるなどして身体に帯電した静電気を除去してください。
- 

## ⚠ 警告

---

- ガソリンの取扱いは換気のよい場所でエンジンを停止してから行ってください。
  - 燃料タンクキャップは確実に締めてください。
  - ガソリンを飲み込んだり、ガソリン蒸気を吸い込んだり、またはガソリンが目に入ったりした場合は、ただちに医師の診断を受けてください。
  - ガソリンが皮膚や衣類にこぼれた場合はただちに石鹸と水で洗い、衣類は取り替えてください。
- 

## ⚠ 注意

---

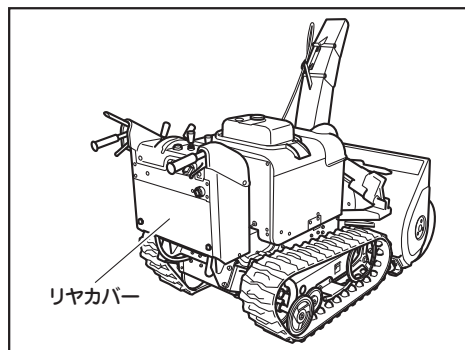
- 燃料が変質してエンジンの始動が困難な場合がありますので、燃料は抜いてください。
  - こぼれたガソリンは、布きれなどできれいにふき取ってください。
  - タンク内にゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。
-

# 保管・格納

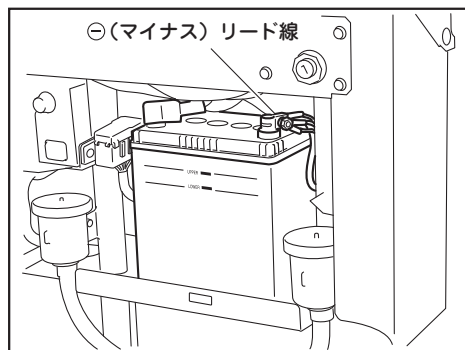
## 保管

使用後、次回の使用までの期間が3ヶ月以上になる場合は、1～18の作業を行って保管し、次の使用に備えてください。

1. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
2. リヤカバーを取り外します。



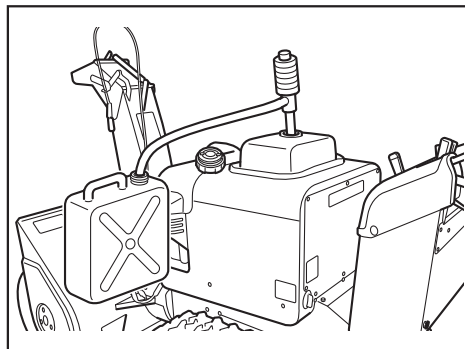
3. バッテリーの⊖（マイナス）リード線を外します。



## 要 点

バッテリーの点検方法、補充電のしかたはヤマハ販売店に相談してください。

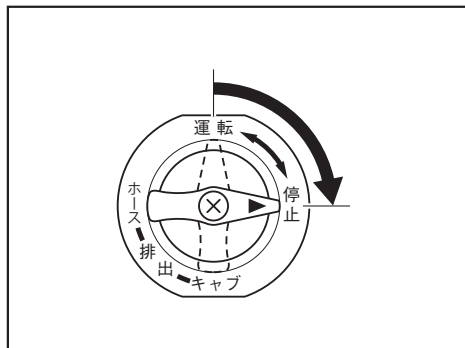
4. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外し、市販のポンプを使用して燃料タンク内のガソリンを抜きます。なお、電動式ポンプは使用しないでください。



## 要 点

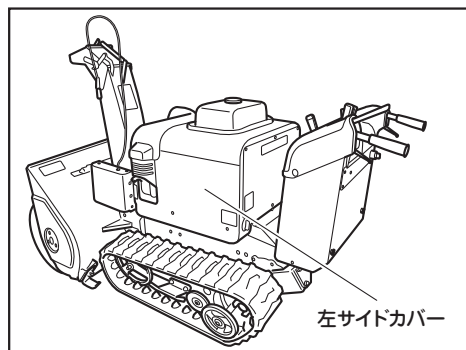
抜き取ったガソリンを受ける容器を用意してください。

5. 燃料コックレバーを“運転”から“停止”位置にします。

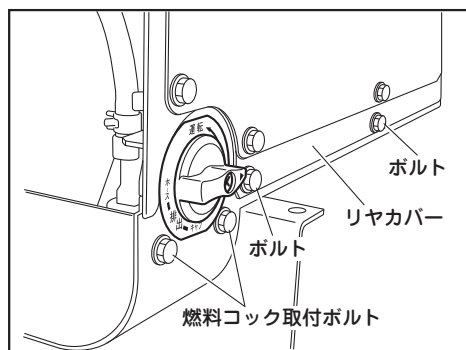


# 保管・格納

6. 左サイドカバーを取り外します。



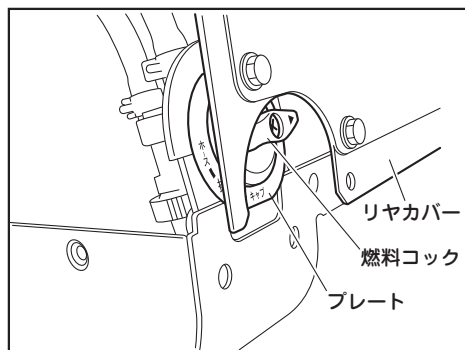
7. リヤカバーのボルト2本と、燃料コック取付ボルト2本を外します。



8. リヤカバーを燃料コックが外せる程度引き上げ、燃料コックを取り外します。

## ▲注意

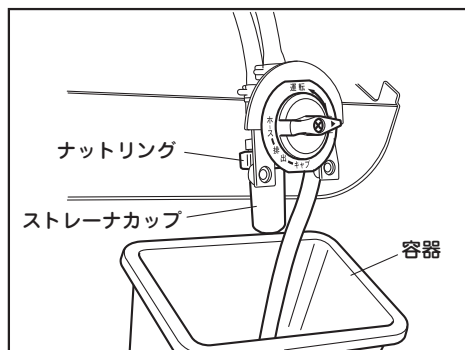
燃料コックの密閉性に悪影響を与える可能性がありますので、プレート（銀色）を変形させないでください。



9. 排出するガソリンを受け取る容器の中で、燃料コックのナットリングを取り外してストレーナカップを外します。

## 要点

ナットリングがゆるみにくい場合は、プ라이어などの工具でゆるめてください。

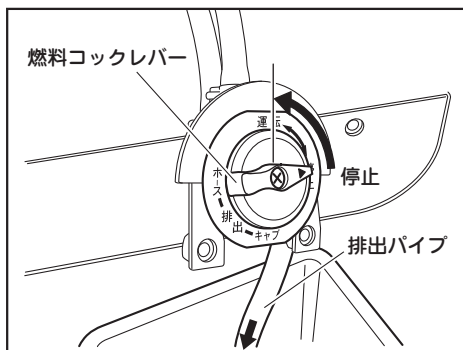


## 保管・格納

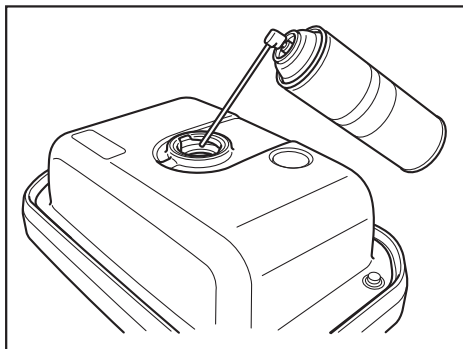
10. 燃料コックレバーを“停止”から“運転”にし、燃料タンク内のガソリンを排出パイプから抜きます。

### ▲注意

こぼれたガソリンはただちに布きれなどで完全にふき取ってください。



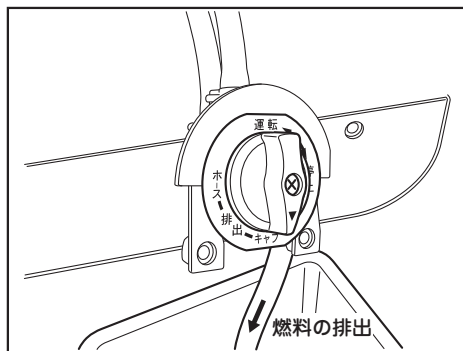
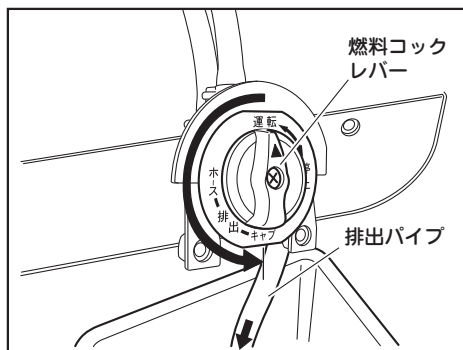
11. 防錆スプレーで燃料タンク内を防錆処理します。



12. 燃料コックレバーを“運転”から“キャブ”にし、キャブレタ内のガソリンを排出パイプから抜きます。

### ▲注意

こぼれたガソリンはただちに布きれなどで完全にふき取ってください。

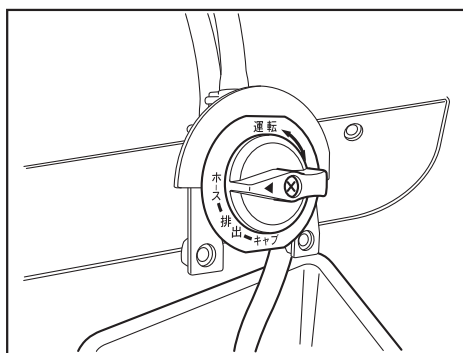
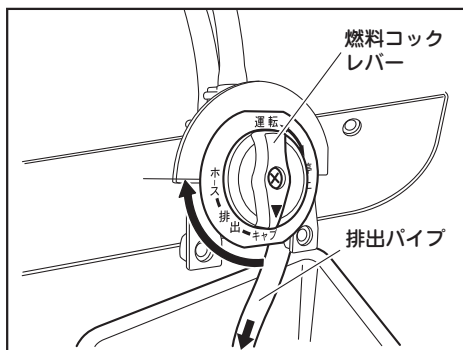


## 保管・格納

13. 燃料コックレバーを“キャブ”から“ホース”にし、ホース内のガソリンを排出パイプから抜きます。

### ▲注意

こぼれたガソリンはただちに布きれなどで完全にふき取ってください。



14. ストレーナカップ、ナットリングを取り付けます。

15. 取り外しの逆の手順で、燃料コック・リヤカバー・左サイドカバーを取り付けます。

### ▲注意

燃料コックの密閉性に悪影響を与える可能性がありますので、プレート（銀色）を变形させないでください。

16. 燃料コックレバーが“ホース”になっていることを確認します。

17. ゆるみがあれば、各ボルト・ナットを増し締めします。

18. 室内で湿気が少なく換気のよい場所に保管します。



# 保管・格納

---

## 格納

長期間にわたって使用しない場合は、次のことを行って格納し、次の使用に備えてください。

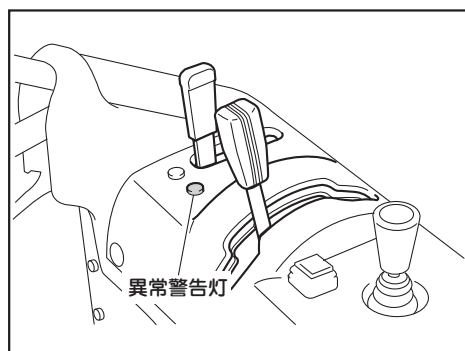
1. 保管項目の1～17の作業を行います。
2. 各部をきれいに清掃して防錆処理をします。
3. 除雪機にカバーを掛け、湿気の少ない換気のよい屋内に保管します。

# 故障自己診断について

## 異常警告灯の確認

エンジンスイッチを“運転”にして、点灯から消灯になるかを確認します。（球切れチェック）“運転”の位置で点滅しなければ異常ありません。点滅した場合は、一度エンジンスイッチを“停止”にしてから再度“運転”の位置にしてください。それでも点滅が消えない場合は販売店にご連絡ください。

また、除雪中・移動中に異常が発生した場合は、安全上除雪機が停止します。（ただし、点滅パターン長5の異常は除きます）あるいは過大な負荷が発生した場合にも除雪機を保護するために異常と判断し、除雪機が停止する場合があります。その場合は、一度エンジンを停止し、再度エンジンスイッチを“運転”の位置にして点灯から消灯になるかを確認してください。点滅が消えない場合は販売店にご連絡ください。



異常箇所	点滅パターン
走行クラッチ異常	長4 短1
走行クラッチスイッチ異常	長4 短2
HST モータ (左) 異常	長3 短3
HST モータ (右) 異常	長3 短4
HST センサ (左) 異常	長3 短1
HST センサ (右) 異常	長3 短2
車速センサ (左) 異常	長3 短5
車速センサ (右) 異常	長3 短6
旋回レバーセンサ (左) 異常	長2 短1
旋回レバーセンサ (右) 異常	長2 短2
変速レバーセンサ異常	長2 短3
チルトセンサ異常	長5 短1
コントローラ異常	長1 短1
	長1 短2
	長1 短3
	長1 短5
エンジン回転入力異常	長5 短4

## 要 点

エンジンを停止して移動する方法は47ページ参照。

# 仕様諸元

	販 売 名 称	YS1390A	YS1390AR
寸法・重量	全 長 / 全 高	1700mm / 1360mm	
	全 幅	915mm	
	装 備 重 量	299kg	313kg
除雪性能	除雪幅 / 除雪高さ	915mm / 570mm	
除雪機構	除 雪 機 構	2 ステージオーガプロア	
	シュータ回転角度	230°	
走行機構	走 行 装 置	エンドレスゴムクローラ	
	変 速 装 置	左右独立 HST	
	前進速度 / 後進速度	0 ~ 3.2km/h / 0 ~ 2.5km/h	
原動機	エ ン ジ ン 種 類	空冷 4 ストローク傾斜型 OHV 単気筒ガソリン	
	総 排 気 量	0.374L (374cm <sup>3</sup> )	
	ネ ッ ト 出 力	7.8kW (10.6PS) / 3600r/min*	
	指 定 燃 料	無鉛レギュラーガソリン	
	燃 料 タ ン ク 容 量	6.7L	
	潤 滑 方 式	強制飛沫式	
	エンジンオイル	4 ストロークガソリンエンジンオイル 1.1L (1100cm <sup>3</sup> ) SAE 5W-30 SE 級以上	
	変 速 機 オ イ ル	HST : ディーゼルエンジンオイル SAE 10W-30 CD 級以上	
	始 動 方 式	セルモータ	
サービスデータ	スパークプラグ	BPR4ES (NGK)	
	スパークプラグギャップ	0.7 ~ 0.8mm	
	ウォームケースオイル	0.08L (80cm <sup>3</sup> ) 10W-30	
	バ ッ テ リ 形 式	40B19R	
	バ ッ テ リ 容 量	12V 27AH	
	トラック(クローラ)の張り具合	20 ~ 30mm / 10kgf	
	オーガ用Vベルト	BANDO W800 SB-43 またはミツボシ LB-43 スーパーゴールド 1000	
	走行用Vベルト	BANDO W800 SA-45 またはミツボシ LA-45 スーパーゴールド 1000	
	作 業 灯	12V 23W	

この仕様諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

\* 仕様諸元表に表示した出力は、回転数3600r/minでの代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる場合が有ります。除雪機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境やその他の条件により変化します。

# お客様ご相談窓口のご案内

---

お買いあげいただきました除雪機に関してのお問い合わせは、ご購入いただいた販売店へお願いいたします。

お気軽にご用命ください。

転居などでご購入いただいた販売店へのご相談ができない場合は、ヤマハ除雪機販売店または<ご相談窓口>へお気軽にお申しつけください。

<ご相談窓口>

◆カスタマーコミュニケーションセンター

**ヤマハ発動機株式会社**  
カスタマー コミュニケーション センター

〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500

 **0120-090-819**

受付時間 月曜～金曜  
(祝日、弊社所定の休日等を除く)

9:00～12:00 13:00～17:00

- 土曜、日曜、祝日、年末年始は休業させていただきます。  
その他夏期など休業させていただく場合があります。
- 区画整理、電話局の新增設などにより、住所、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

2019年4月現在



# 索引 (さくいん)

## あ行

安全にお使いいただくために	3
異常警告灯	29
異常警告灯の確認	79
移動をするとき	46
ウォームケースオイルの交換	59
運転する前に点検しましょう	33
エンジンオイルの交換	56
エンジンオイルの点検	37
エンジンオイルの点検 (簡易式)	36
エンジンスイッチ	17
エンジンのかかり具合および異音の 点検	40
エンジンの始動	43
エンジンの停止	45
エンジンを停止して移動するとき	47
オーガの点検	40
オーガハウジング高さ・角度調整 スイッチ (YS1390AR)	23
オーガハウジング高さ調整スイッチ (YS1390A)	22
お客様ご相談窓口のご案内	81

## か行

格納	78
各部の給油	71
各部の取り扱い	17
各部の名称	9
故障自己診断について	79

## さ行

作業灯	28
シャープルトガード	26
シャープルトの交換	65
車体水平スイッチ	29
シュータ調整スイッチ	20
シュータの作動具合	40
重要ラベル	7
仕様諸元	80
使用前点検	33、53
除雪作業をするとき	48

除雪作業を停止するとき	52
除雪スイッチ	21、40
進行方向を変えるとき	47
スキッド	27
スキッドの調整	63
スクレーパ	27
スクレーパの調整	66
スタータモータの作動具合の点検	40
スノーバー (雪かき棒)	26
スパークプラグの点検・清掃	60
スプロケットピンの交換	70
スロットルレバー	18
旋回レバー	19
前日の作業で異常が認められた 箇所の点検	41
走行クラッチの操作具合の点検	40
走行クラッチレバー	21

## た行

正しい運転方法	43
定期点検	53
デッドマンクラッチ	51
点検項目	54
トラック (クローラ) の張りの点検と 調整	67

## な行

燃料コック	25
燃料残量計	24
燃料タンクキャップ	24
燃料の点検	34

## は行

排気の状態の点検	40
バッテリー液の点検	68
バッテリー液量の点検	39
ハンドルのゆるみ、ガタの点検	40
ヒューズ	25
ヒューズの交換	69
フューエルストレーナの清掃	62
変速機 (HST) オイルの点検	38

# 索引 (さくいん)

---

変速機 (HST) オイルの補給	58
変速レバー	18
保管	74
保管・格納	73
本体識別ラベル	1

## や行

やさしい点検と整備	53
油量警告灯	28

## ら行

らくらく除雪スイッチ	30
------------	----



## 正しい操作で安全除雪

- 雪詰まりの際や点検・整備時は、必ずエンジンを停止させてから。
- 回転部・投雪部には手・足・顔などを絶対に近づけない。
- 投雪方向は人・窓・車など、常にまわりの状況を確認して。
- 早朝や深夜の除雪は、ご近所の迷惑を考えて。
- 燃料の取り扱いには充分なご注意を。

その他、ご使用になる前には必ず取扱説明書をよく読んで、安全で正しい操作を心がけましょう。



ヤマハモーターパワープロダクツ株式会社  
〒436-0084 静岡県掛川市逆川200-1